参考資料２－１

黒部川水系河川整備基本方針

流域及び河川の概要

令和　　年　　月

国土交通省　水管理・国土保全局

目　次

第 1 章 流域の自然状況 1
1－1 流域及び河川の概要 1
1－2 地形 3
1－3 地質 4
1－4 気候 5

第 2 章 流域及び河川の自然環境 6
2－1 流域の自然環境 6
2－2 河川及びその周辺の自然環境 7
2－3 特徴的な河川景観や文化財等 29
2－4 自然公園等の指定状況 33

第 3 章 流域の社会状況 35
3－1 土地利用 35
3－2 人口 36
3－3 産業 38
3－4 交通 40

第 4 章 水害と治水事業の概要 41
4－1 既往洪水の概要 41
4－2 治水事業の経緯 49

第 5 章 水利用の現状 52
5－1 利用の現状 52
5－2 渇水の被害の概要 55

第 6 章 河川の流況と水質 56
6－1 河川流況 56
6－2 河川水質 59

第 7 章 河川空間の利用状況 61
7－1 河川空間の利用状況 61
7－2 河川の利用状況 65

第 8 章 河道特性 66
8－1 河道の特性 66
8－2 上流域（峡谷部）の河道特性（源流～黒薙川合流点） 68
8－3 中流域（山間部）の河道特性（黒薙川合流点～愛本堰堤） 70
8－4 下流域（扇状地部）の河道特性（愛本堰堤～河口部） 71
8－5 海域（富山湾） 72

第 9 章 河川管理 73
9－1 河川管理区間 73
9－2 河川管理施設等 74
9－3 水防体制 76
9－4 危機管理の取組 80

第1章　流域の自然状況

1－1　流域及び河川の概要

黒部川（くろべがわ）は、その源を富山県と長野県の県境の鷲羽岳（わしばだけ）（標高 2,924m）に発し、立山（たてやま）連峰（れんぽう）と後立山連峰（うしろたてやまれんぽう）の間に峡谷を刻み北流し、黒薙川（くろなぎがわ）等の支川を合わせ黒部市愛本に至り、その後は扇状地を流下し、黒部市（くろべし）、入善町（にゅうぜんまち）において日本海に注ぐ、幹川流路延長 85km、流域面積 682km^2 の一級河川である。

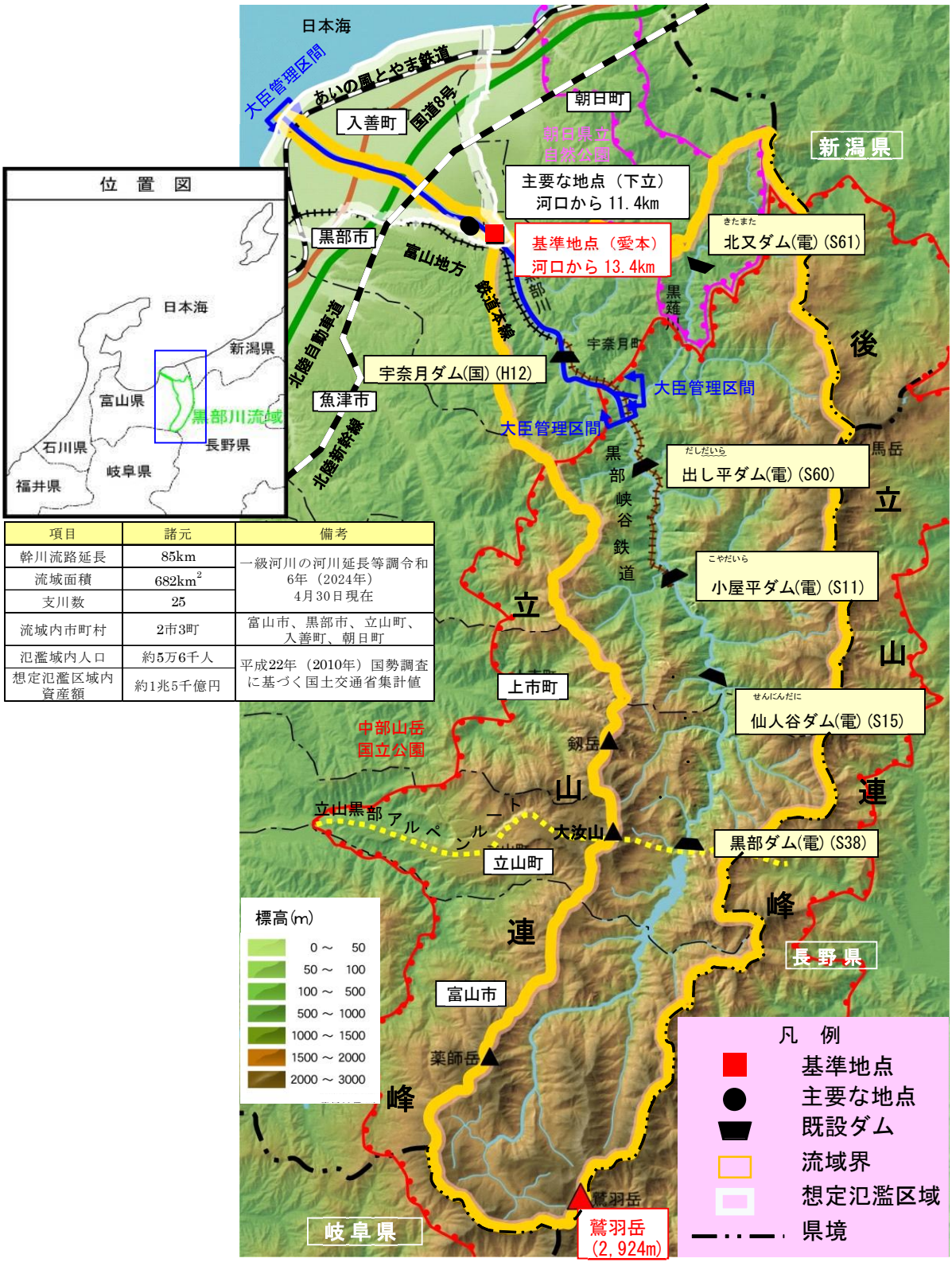
その流域は、黒部市をはじめとする 2 市 3 町からなり、流域の想定氾濫区域内の関係 3 市町の人口は昭和 55 年（1980 年）と令和 2 年（2020 年）を比較すると約 9.1 万人から約 7.5 万人に減少し、高齢化率は 12.2%から 35.4%に大きく変化している。流域の土地利用は、山地等が約 98%、水田や畑地、宅地等が約 2%となっている。また、下流の扇状地を中心とする氾濫域は、約 60%が水田として利用されている他、畑地、宅地等に利用されている。

下流の氾濫域内には、黒部川扇状地に富山県の主要都市である黒部市や入善町があり、流域内には国道 8 号、北陸自動車道や、あいの風とやま鉄道、北陸新幹線が整備され、日本海側の主要交通網が通過している。その他主要地方道や富山地方鉄道、黒部峡谷鉄道が流域を縦断する形で整備されており、交通の要衝となっている。

流域内には、黒部峡谷や宇奈月温泉に代表される観光資源が位置しており、観光産業が流域の主力産業となっている。黒部峡谷へは、令和5年（2023年）に開湯100周年を迎えた宇奈月温泉街から黒部峡谷鉄道がトロッコ電車を運行しており、年間 40～60 万人もの観光客が利用している。また、上流の黒部ダムには富山県と長野県間の北アルプスを縦貫する山岳観光ルートの「立山黒部アルペンルート」が整備され、登山客をはじめ多くの観光客が利用している。令和 8 年（2026 年）からは「黒部宇奈月キャニオンルート」が欅平（けやきだいら）～黒部ダム間で一般開放されるなど、更なる交流人口の増加が期待される。

また、昭和 26 年（1951 年）から昭和 32 年（1957 年）にかけて実施した流水客土による耕土の改良等により扇状地を利用した水稲が盛んである他、全国屈指の生産量となっているアルミサッシ等の軽金属産業や出荷額世界一位のファスナーをはじめとする機械・金属関連産業、豊富な地下水を利用した飲料産業等が集まっており、近年は大規模工場の進出も見られる。沿川地域には日本三奇橋の一つである愛本刎橋跡、名水百選に黒部川扇状地湧水群として選定された、国の天然記念物である入善町の杉沢の沢スギや、扇状地の湧水を活かした黒部市生地の共同洗い場等があり、流域の歴史や人々の暮らしと深く結び付き、この地域における社会、経済、文化の基盤を成している。

一方、流域の約 74%が中部山岳国立公園等の自然公園に指定され、黒部峡谷等の景勝地が見られる等、豊かな自然環境に恵まれているとともに、黒部川第四発電所をはじめとする発電等、様々な水利用が行われており、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。



項目	諸元	備考
幹川流路延長	85km	一級河川の河川延長等調令和6年（2024年）4月30日現在
流域面積	682km^2	
支川数	25	
流域内市町村	2市3町	富山市、黒部市、立山町、入善町、朝日町
氾濫域内人口	約5万6千人	平成22年（2010年）国勢調査に基づく国土交通省集計値
想定氾濫区域内資産額	約1兆5千億円	

図 1-1　黒部川流域図

1－2　地形

黒部川流域の地形は、図 1-2 に示すように大汝山（おおなんじやま）、剣岳（つるぎだけ）等からなる立山連峰と、鷲羽岳や白馬岳（しろうまだけ）等からなる後立山連峰に囲まれた極めて狭く、かつ急峻な山岳地形である。黒部川は、その間を弓状に流下する典型的な羽状流域の河川であり、流域の東部に 3,000m 級の後立山連峰が形成されていることから、降雨が集中し大洪水が発生しやすい傾向にある。また、わが国屈指の急流河川（山地部で 1/5～1/80、扇状地部で 1/80～1/120）であり、洪水時の流れは速く土砂を多く含んでいることから、多くの土砂を移動させ中小洪水でも侵食が進行する。

その地形は、新第三紀以降の地殻変動により急激に隆起した後、黒部川により激しい侵食を受け、「黒部峡谷」が形成されている。また、断層が本川に対して斜交又は直交するため、多くの支川が本川に対してほぼ直角に合流する。

図 1-3 に示すように、扇頂部にあたる黒部市愛本（あいもと）から下流では、流出土砂による典型的な扇状地となっており、黒部川からの氾濫流は拡散し被害が拡大する危険性が高い河川であることから、流域全体での対策が必要である。

図 1-4 の流路変遷図からも分かるように、かつて愛本下流では川筋が幾筋にも分かれ、その川筋の多さから「黒部四十八ヶ瀬（しじゅうはちがせ）」とも呼ばれてきたことからも、過去、黒部川は幾度となく洪水氾濫を引き起こしたことが分かる。

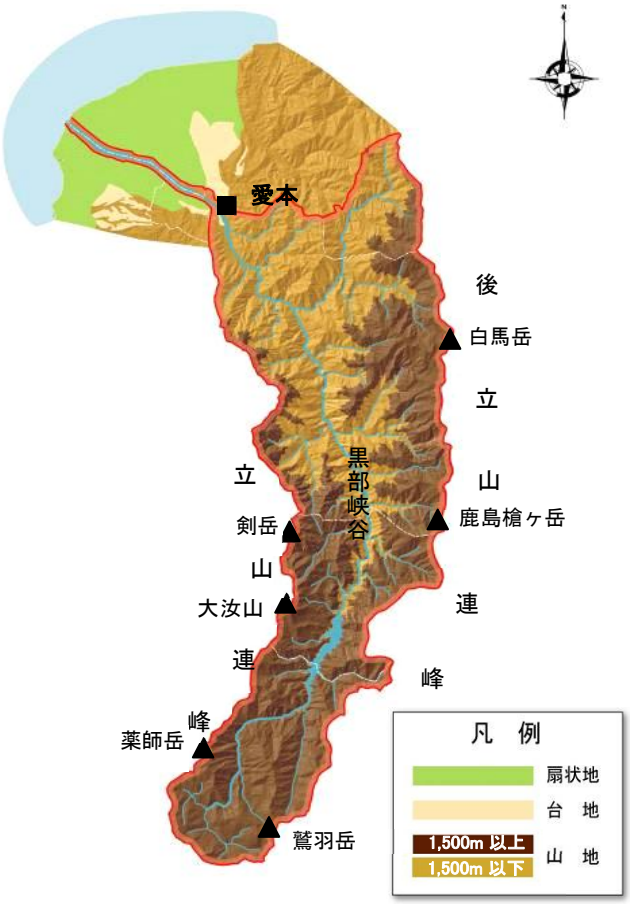


図 1-2　黒部川流域の地形

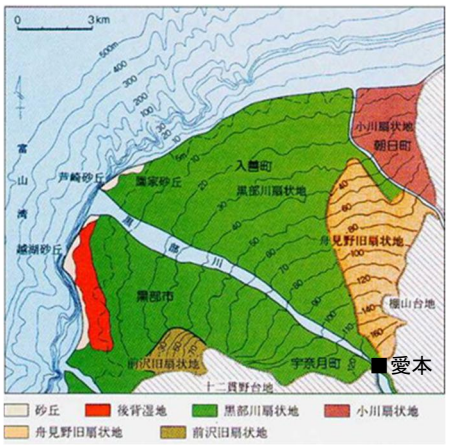


図 1-3　黒部川扇状地地形



出典：黒部川の 50 年

図 1-4　流路変遷図（天明5年の絵図）

1－3　地質

黒部川流域の地質は、図 1-6 に示すように、主に古生界～中生界の古期花崗閃緑岩類（船津花崗岩類）及び新第三系の新期花崗閃緑岩類からなる。また、後立山連峰白馬岳周辺には古生界の飛騨外縁帯の石灰岩、チャート、頁岩が分布し、立山及び源流部付近の雲の平周辺には第四紀火山噴出物、欅平周辺には飛騨変成岩類、鐘釣付近では飛騨外縁帯の石灰岩が花崗岩中の捕獲岩（花崗岩の上昇に伴って取り込まれた巨礫）としてそれぞれ分布している。

花崗閃緑岩類は、河床部付近では切り立った急崖を形成し、堅硬な岩盤を呈する一方、高標高部ではマサ状に風化しており、脆弱となっている。特に祖母谷（図 1-5）、小黒部谷、不帰谷ではマサ状風化部で大崩壊地が形成され、その崩壊地面積比率は 5%で全国第 3 位となっており、黒部川の大量の土砂生産源となっている。平成 7 年（1995 年）7 月洪水時には大量の土砂が流出し、黒部川中流部に約 600 万 m^3 の土砂が堆積した。

黒部市愛本付近から河口にかけては、第四紀系の砂礫層が巨大な扇状地を形成しており、また、砂礫層が段丘を形成して扇状地の縁に沿って分布している。



図 1-5　祖母谷崩壊地

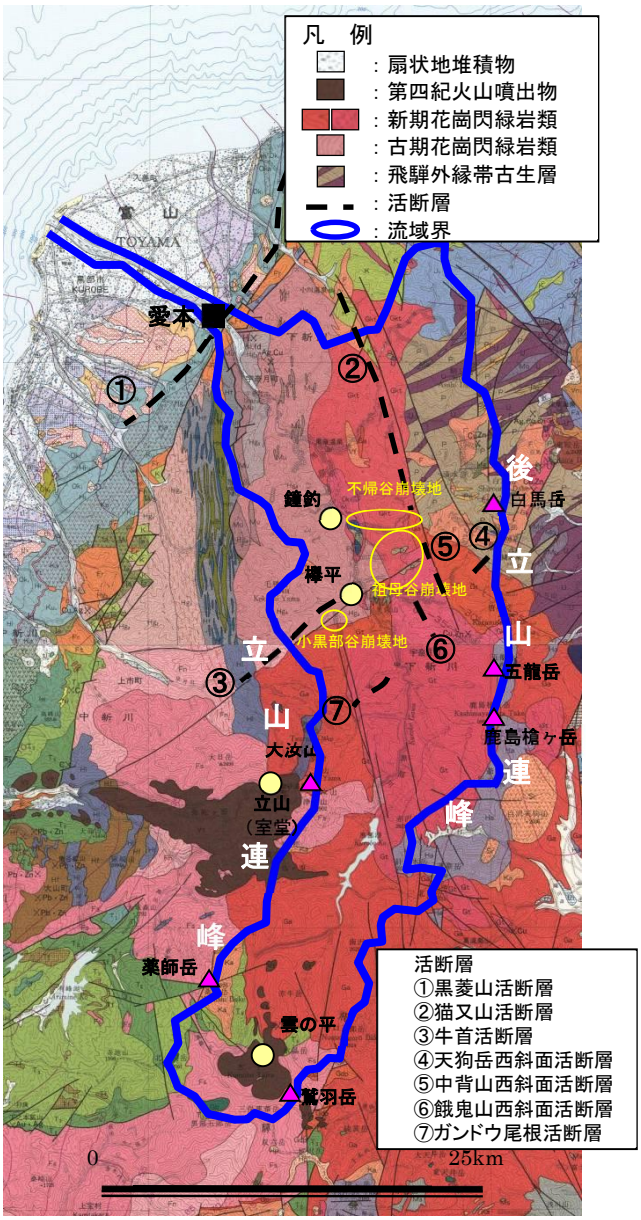


図 1-6　黒部川流域の地質

出典：地質調査所発行 地質図，活断層については宇奈月ダム工事誌参照

1−4　気候

黒部川流域の気候は、冬期の寒冷積雪と夏期の高温多湿により特徴付けられ、四季が明確な日本海型気候であり、国内有数の多雨多雪地帯である。黒部川上流域は、南北に縦走する立山連峰北部山稜と後立山連峰北部山稜に沿って偏西風が吹き抜ける際に発生する雨雲が、剣岳・立山等の標高の高い山にぶつかる位置にあるため、降水量が多くなっている。その地点別の降水量は過去 10 年間の平均で見ると、図 1-9 に示すように上流に向かうほど多くなり、下流域の朝日で約 2,700mm、扇状地より上流の宇奈月で約 3,600mm、更に上流の峡谷地にある仙人谷では 4,100mm であり、全国平均 1,700mm を上回る。また、黒部川流域では、6 月から 7 月にかけて梅雨前線による豪雨が多いことから洪水の危険性が高く、12 月から 3 月にかけて降雪が多いことから豊富な水資源となっている。

毎年、3 月から 5 月頃にかけては、日本海に低気圧が発生し寒冷前線が通過することが多く、これに応じたフェーン現象の発生も見られる。この急激な温度上昇が、雪崩や山火事を発生させる原因にもなっている。

図 1-9 に示すように、流域内の年平均気温は、仙人谷で 9℃、宇奈月で 12℃、黒部で 14℃となっており、上流域の仙人谷の方がいずれも 3～5℃低くなっている。

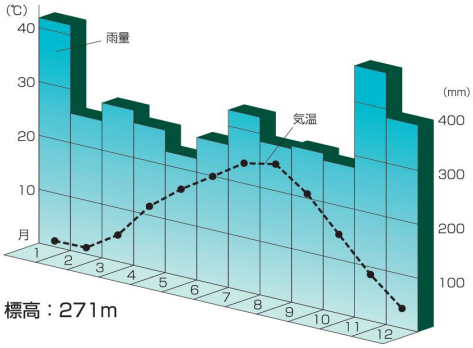


図 1-7　宇奈月の雨量と気温

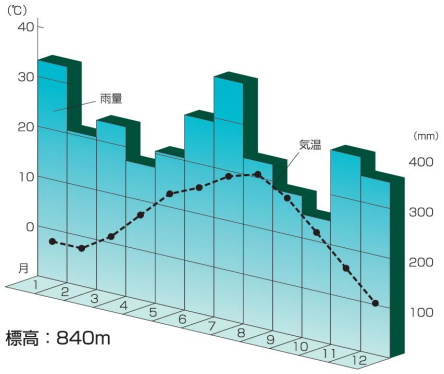


図 1-8　仙人谷の雨量と気温

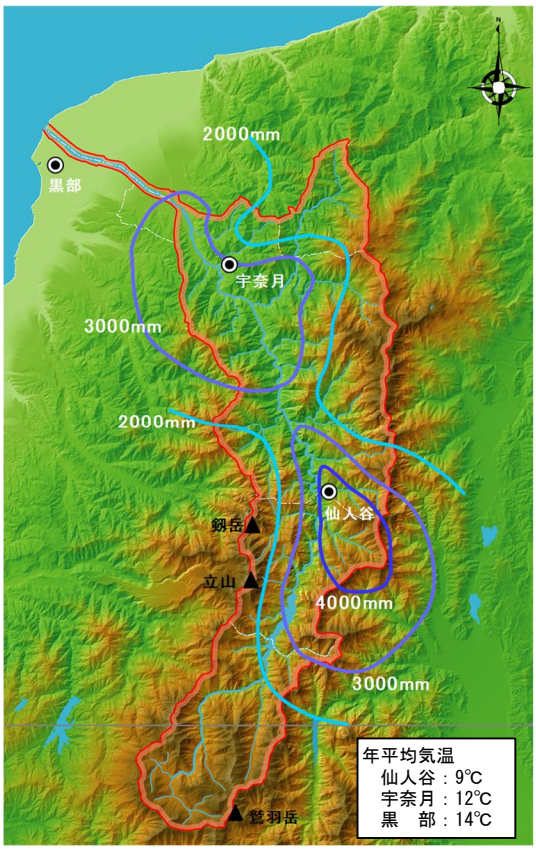


図 1-9　黒部川流域における平均降水量

出典：黒部市

第2章　流域及び河川の自然環境

2－1　流域の自然環境

流域内の流程は、地形によって上流域、中流域、下流域に分類される。

河床勾配は上流域で約 1/5～1/40、中流域で約 1/100、下流域で約 1/100～1/200 である。河川区分では、上流域は渓谷区間、中流域は山間区間、下流域は扇状地区間となっている。

●上流域：（源流～黒薙川合流部）
●中流域：（黒薙川合流部～13.4k）
●下流域：（13.4k～河口）

上流域は、大半が中部山岳国立公園に指定されており、標高 3,000m 級の山々が連なる山岳地帯から標高 0m の海岸部まで一気に流れ下る黒部川は、途中に、険しい岸壁と清流が織り成す景観美「黒部峡谷」を造りあげた。植生は針葉樹と広葉樹が混交し、国の特別天然記念物である絶滅危惧種のライチョウ、絶滅危惧種のニホンカモシカ等の他、峡谷にはニッコウイワナが生息・繁殖している。中流域には、瀬淵が連続する山付区間があり、渓流環境にはカジカやニッコウイワナ、渓流と森林が隣接する環境にはカジカガエルやヒダサンショウウオが生息・繁殖している。下流域では、扇頂部の愛本を要に、黒部川が運んだ土砂が堆積して出来た美しい扇状地形が広がっており、瀬淵にはサクラマス（ヤマメ）、アユ、カジカ等が、湧水が湧出する場所にはトミヨ、河口部の礫河原はコアジサシが生息・繁殖している。

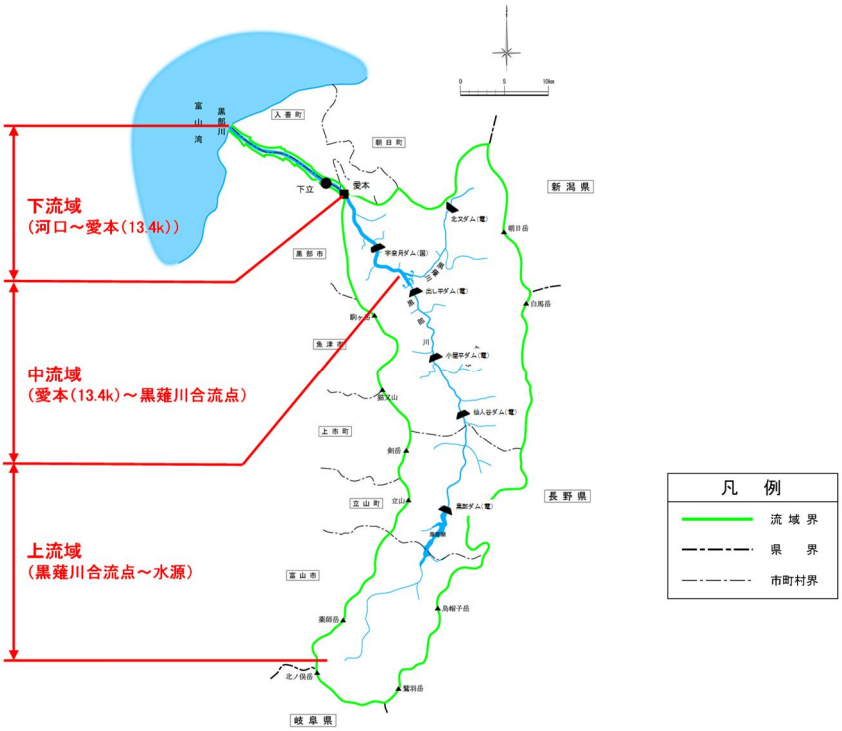


図 2-1　黒部川流域

2－2　河川及びその周辺の自然環境

(1)　上流域の自然環境（源流～黒薙川合流部）

上流域では、白竜峡、十字峡、S 字峡、猿飛峡、奥鐘山等、国の特別名勝・特別天然記念物が点在しており、見事な渓谷美を誇っている。植生は、針葉樹と広葉樹が混交する独特の植生であり、高山帯植生のハイマツ、高山植物のニッコウキスゲ、亜高山帯植生のトウヒ、チョウセンゴヨウ、山地帯植生のブナ、ツガ、クロベ等が幅広く分布している。

鳥類は絶滅危惧種のライチョウやイヌワシ等、哺乳類は国の特別天然記念物であるニホンカモシカをはじめ、ニホンザル等が生息しており、魚類はニッコウイワナが生息・繁殖している。



1. クロベ



2. ライチョウ



3. ニホンカモシカ



4. ニッコウイワナ

図 2-2　黒部川上流域の代表的な生物

(2)　中流域の自然環境（黒薙川合流部～13.4k）

中流域は、そのほとんどが山付区間となっている。河道は単状で瀬・淵が連続し、斜面には、落葉広葉樹やスギ等の植生が見られる。宇奈月ダムのダム湖周辺にはミズナラ群落が広く分布し、水際にはサワグルミやケヤキの群落が見られる。

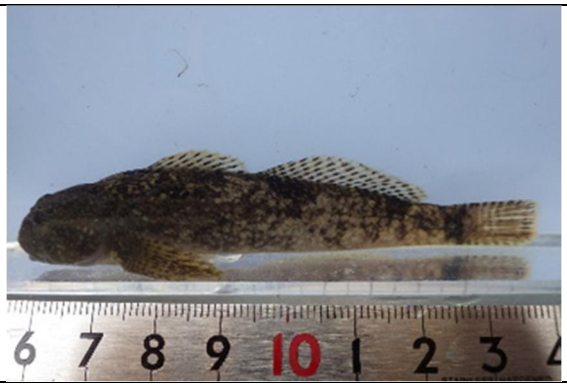
鳥類ではオシドリや絶滅危惧種のサンショウクイ等が生息・繁殖している。魚類は、カジカ、ニッコウイワナ、サクラマス（ヤマメ）等が生息・繁殖しており、礫底河床が形成されていることから産卵場にも適している。なお、宇奈月ダムの下流に位置する支川合流部ではサクラマス（ヤマメ）の産卵が確認されている。両生類では黒部川周辺の湿地にカジカガエルやナガレタゴガエル、ヒダサンショウウオ等が生息・繁殖している。



図 2-3　黒部川の中流域



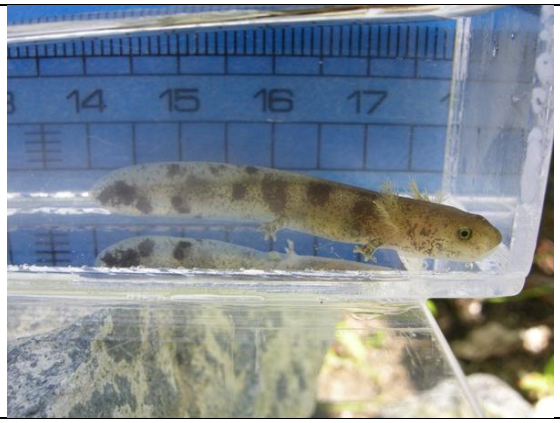
1. ニッコウイワナ



2. カジカ



3. サンショウクイ



4. ヒダサンショウウオ

図 2-4　黒部川中流域の代表的な生物

(3)　下流域の自然環境（13.4k～河口）

下流域は、愛本から黒部川橋（7.0k）付近迄の流れは交互砂州河道となっているが、そこから河口までの流れは複列砂州河道となり、平瀬や早瀬が連続した流れを形成している。魚類は、アユ、サクラマス（ヤマメ）、カジカ等が生息・繁殖している。植物はアキグミ、カワラハハコ等、礫河原を生育地とする植物が多く見られる。

黒部川橋（7.0k）から下流の複列砂州河道部の中州は、シギ・チドリ類等の渡り鳥の中継地となっている。また、瀬・淵にはサクラマス（ヤマメ）やアユ、カジカ等の魚類が生息・繁殖しており、特に河口部の瀬にはカマキリ等の浮き石河床を好む回遊性の底生魚が生息している。湧水を起源とする、やすらぎ水路や河口部の左岸側の湧水等による湿地環境には絶滅危惧種のトミヨが生息しており、ワンド・たまりにはメダカ類等の魚類が生息している。

河口部の澪筋で分断された広い砂礫の中州は、コアジサシの集団繁殖地となっている。

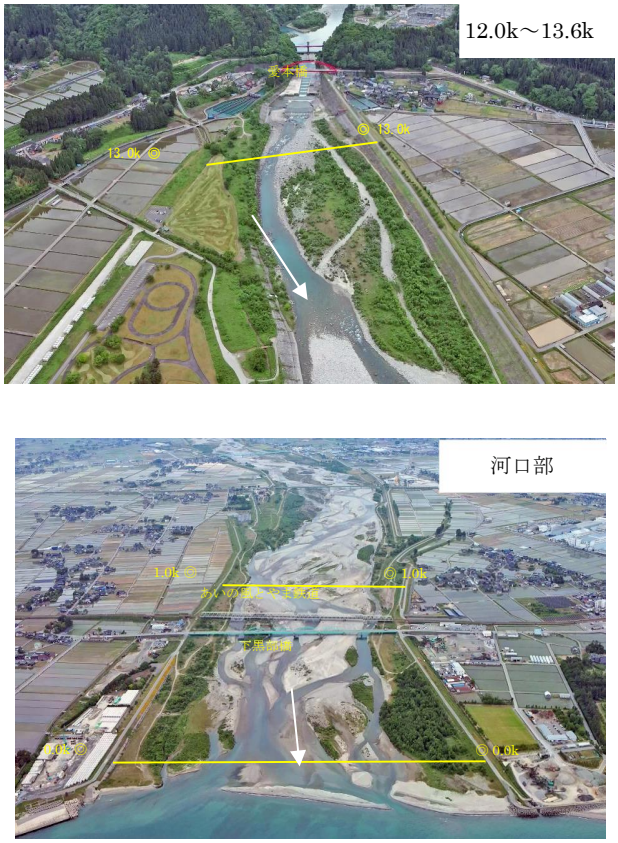
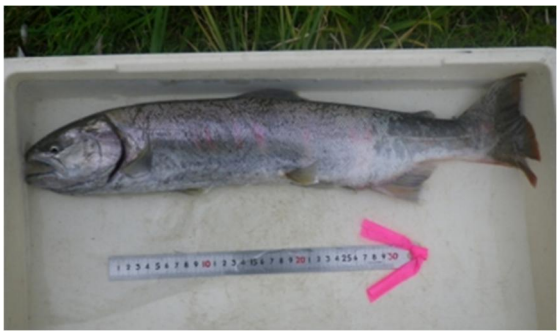


図 2-5　黒部川の下流域



1. アキグミ



2. サクラマス（ヤマメ）



3. トミヨ

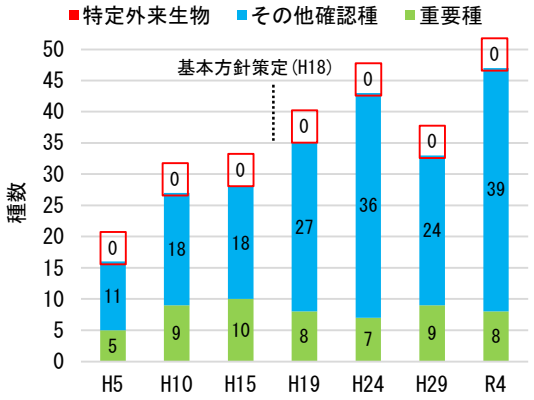


4. コアジサシ

図 2-6　黒部川下流域の代表的な生物

(4)　動植物の生息・生育・繁殖環境等の変遷

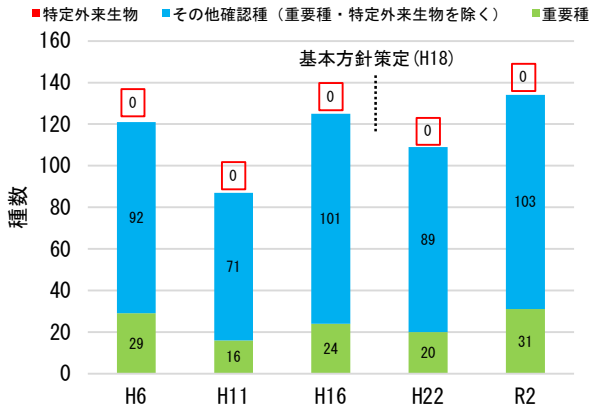
魚類の総確認種数は経年的に増加傾向にあり、これはサヨリ等の汽水性の初確認種が増加したことによるものである。鳥類の確認種数は約 90～140 種で推移している。植物群落の面積割合は、カワラヨモギ-カワラハハコ群落を含む「多年生広葉草本群落」が、自然裸地の増減に応じて変動している。



※特定外来生物の確認なし

図 2-7　魚類の確認種数の経年変化

出典：河川水辺の国勢調査



※特定外来生物の確認なし

図 2-8　鳥類の確認種数の経年変化

出典：河川水辺の国勢調査

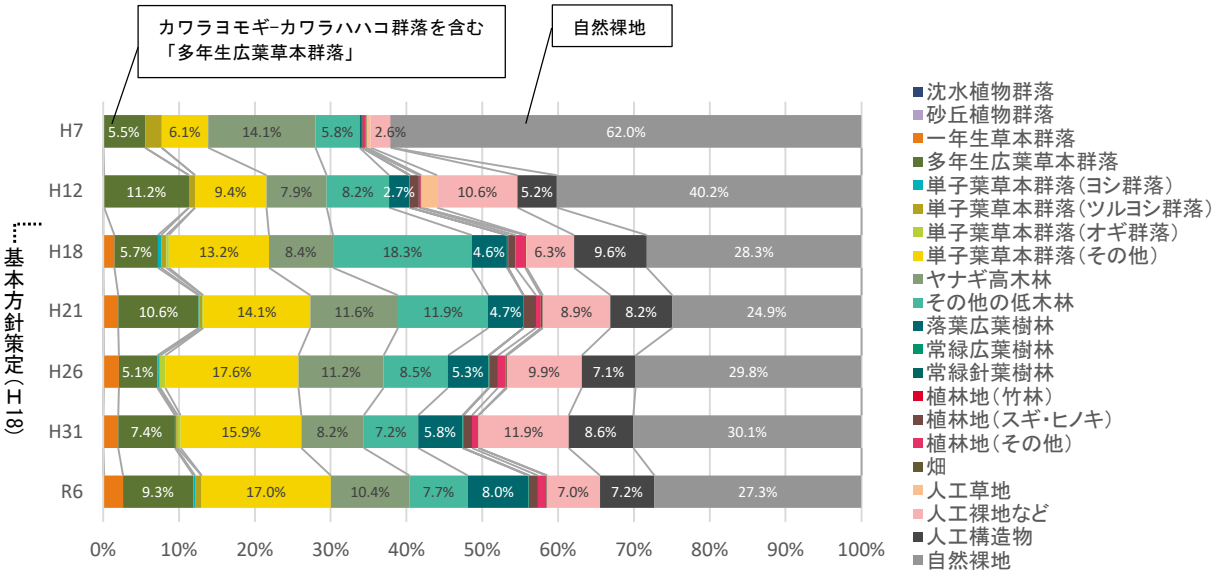


図 2-9　河道内の植物群落の経年変化

出典：河川水辺の国勢調査

(5)　黒部川の気温、水温の変化

黒部川大臣管理区間の代表地点の年平均気温は、気象庁朝日観測所において平成元年（1989 年）頃から徐々に上昇している傾向が見られる。年平均水温は、近年若干高い傾向にあり、特に下黒部橋で顕著な上昇の傾向が見られる。黒部川の下黒部橋地点の水温は、1～3 月に 5℃前後で最低となり、8～9 月に 20℃前後で最高となる。ただし、近年は最高水温が 25℃に近付きつつあり、水温の上昇が見られる。

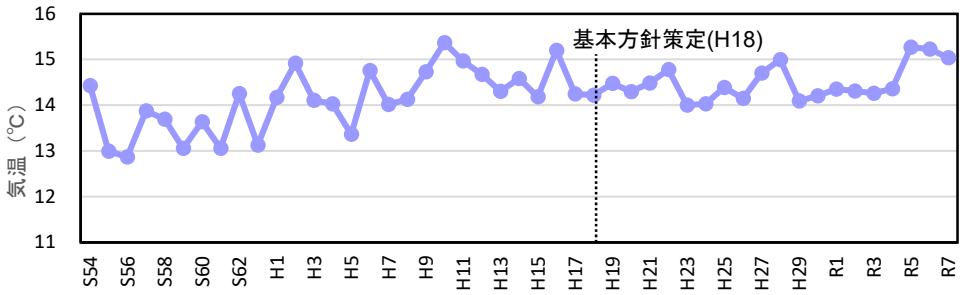


図 2-10　朝日観測所の年間平均気温の変化

出典：富山地方気象台（気象庁）

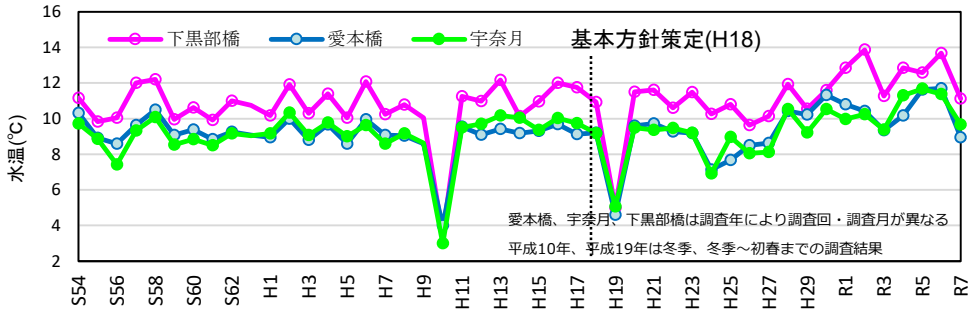


図 2-11　年平均水温の経年変化

出典：水文水質データベース（国土交通省）

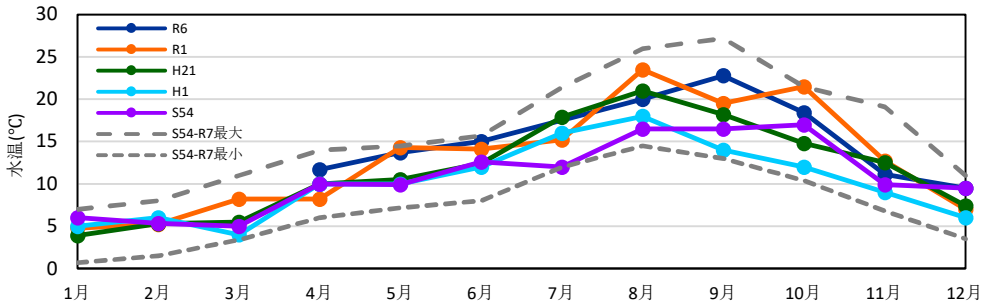


図 2-12　水温（下黒部橋）の経月変化

出典：水文水質データベース（国土交通省）

(6) 重要種の確認状況

黒部川における重要種を、河川水辺の国勢調査等の結果をもとに、学術上又は希少性等の観点から抽出した。選定にあたっては、「文化財保護法」や「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」、「環境省 絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」や地方版のレッドデータブック（富山県）等の掲載種及び「富山県希少野生動植物保護条例」の法律や条例で定められた種とした。

表 2.1 重要な種の選定根拠

資料	分類	選定内容
文化財保護法	特別天然記念物	「動物、植物及び地質鉱物で我が国にとって学術上価値の高いもの」のうち、特に重要なもの。 なお、県や市町村の条例により指定される天然記念物も同様の扱いとする。
	天然記念物	動物、植物及び地質鉱物で我が国にとって学術上価値の高いもの。なお、県や市町村の条例により指定される天然記念物も同様の扱いとする。
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）	国内希少野生動植物種	本邦における生息・生育状況が人為の影響により存続に支障を来たす事情が生じている種で以下のいずれかに該当するもの（亜種又は変種がある種は、その亜種又は変種とする）。 ・個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつある種 ・全国の分布域の相当部分で生息地等が消滅しつつある種 ・分布域が限定されており、かつ、生息地等の生態・生育環境の悪化又は生息地等における過度の捕獲若しくは採取により、その存続に支障を来たす事情がある種
	国際希少野生動植物種	国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種（国内希少野生動植物種を除く。）であって、政令で定めるもの
環境省 レッドリスト	絶滅（EX）	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
	野生絶滅（EW）	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
	絶滅危惧Ⅰ類（CR＋EN）	絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧ⅠA類（CR）	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	絶滅危惧ⅠB類（EN）	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧（NT）	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
	情報不足（DD）	評価するだけの情報が不足している種
	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
レッドデータブックとやま2025	絶滅＋野生絶滅（EX+EW）	県内において野生ではすでに絶滅したと考えられる種
	絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	絶滅の危機に瀕している種
	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危険が増大している種
	準絶滅危惧（NT）	存続基盤が脆弱な種
	情報不足（DD）	絶滅にいたる可能性があるが、情報が不足しており、今後生息・生育状況に注意すべき種
	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	絶滅のおそれのある地域個体群
富山県条例	富山県希少野生動植物	富山県希少野生動植物保護条例に基づき、県内の希少野生動植物のうち、特に保護を図ることが必要なものを「指定希少野生動植物」として指定

○選定根拠となる資料
・文化財保護法：「文化財保護法」（1950 年、法律 214）
・種の保存法：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 5 年、法律第七五号）
・「環境省レッドリスト 2020」（2020 年、環境省）
・「第 5 次レッドリスト（植物・菌類）」（2025 年、環境省）
・「レッドデータブックとやま 2025」（2025 年、富山県）
・富山県希少野生動植物保護条例：「富山県希少野生動植物」（2015 年指定、富山県）

表2-2　黒部川で確認された重要種一覧表（植物）

No	目名	科名	和種名	水国（河川）				水国（ダム湖）		重要種選定基準				
				H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H27 (2015)	H16 (2004)	H27 (2015)	文化財保護法	種の保存法	環境省RL	富山県RL	富山県条例
1	ウラボシ目	チャセンシダ科	イチョウシダ					●				NT	NT	
2	オモダカ目	チシマゼキショウ科	ゲイビゼキショウ						●			EN		
3			ハナゼキショウ					●					NT	
4	ユリ目	サルトリイバラ科	マルバサンキライ					●					NT	
5	クサスギカズラ目	ラン科	シラン			●	●					NT		
6			サルメンエビネ						●			VU	NT	
7			ギンラン					●	●				NT	
8			キンラン						●			NT	VU	
9			クマガイソウ					●				VU	VU	
10			ジガバチソウ					●					NT	
11			ジンバイソウ					●	●				VU	
12			ウチョウラン					●	●			NT	VU	
13		アヤメ科	ヒメシャガ					●	●			NT	NT	
14	イネ目	ガマ科	ミクリ				●					NT		
15			ナガエミクリ				●					NT		
16		イネ科	メガルカヤ		●								VU	
17	キンポウゲ目	キンポウゲ科	ミスミソウ						●			NT	NT	
18	ユキノシタ目	スグリ科	ヤシャビシャク					●				NT	NT	
19	マメ目	マメ科	タンキリマメ		●								EX+EW	
20	バラ目	クロウメモドキ科	ヨコグラノキ					●					VU	
21		バラ科	ハマナス			●	●						VU	
22	キントラノオ目	トウダイグサ科	マルミノウルシ						●			NT		
23	ナデシコ目	タデ科	ノダイオウ			●						VU		
24	ツツジ目	ツツジ科	アセビ						●				EX+EW	
25			レンゲツツジ					●					NT	
26	ナス目	ヒルガオ科	マメダオシ		●							EN	EX+EW	
27	シソ目	オオバコ科	カワヂシャ			●						NT	VU	
28		ゴマノハグサ科	ヒナノウスツボ					●					NT	
29		シソ科	メハジキ			●							NT	
30			ナミキソウ			●							NT	
31		ハマウツボ科	ハマウツボ	●								VU	VU	
32	キク目	キク科	タカサブロウ	●	●	●							VU	
33	セリ目	セリ科	ツボクサ					●					NT	
合計	16目	22科	33種	2種	4種	7種	4種	14種	10種	0種	0種	17種	27種	0種

注)種名・学名・配列、種数カウントは原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト[令和7年度版]』(河川環境データベース、2025年)に従った。

表2-2　黒部川で確認された重要種一覧表（魚類）

No	目名	科名	和種名	水国（河川）							水国（ダム湖）					文献調査	重要種選定基準				
				H5 (1993)	H10 (1998)	H15 (2003)	H19 (2007)	H24 (2012)	H29 (2017)	R4 (2022)	H15 (2003)	H19 (2007)	H24 (2012)	H29 (2017)	R4 (2022)		文化財保護法	種の保存法	環境省RL	富山県RL	富山県条例
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ類※1			○	○	○	○	○									VU	CR+EN or NT	
2	コイ目	コイ科	ジュウサンウグイ※2	●	●	●													LP	NT	
3		ドジョウ科	ドジョウ							●									NT	NT	
4			ドジョウ類※3		○	○		○											(NT or DD)	(NT)	
5	サケ目	サケ科	ニッコウイワナ		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			DD	LP	
6			サクラマス（ヤマメ）	●	●	●	●	●	●	●	●								NT	NT	
7	トゲウオ目	トゲウオ科	トミヨ	●	●	●	●	●	●	●									LP	VU	
8	ダツ目	メダカ科	メダカ類※4				○												(VU)	(NT)	
9	スズキ目	カジカ科	カマキリ	●	●	●	●	●	●	●									VU	NT	
10			カジカ		●	●	●	●	●	●	●								NT	NT	
11			カジカ中卵型				●		●										EN	VU	
12			カンキョウカジカ			●													LP	VU	
13		ハゼ科	ルリヨシノボリ		●															VU	
14			ビリンゴ	●	●	●			●	●										NT	
合計	6目	8科	14種	5種	8種	8種	6種	5種	7種	7種	3種	1種	1種	1種	1種	1種	0種	0種	12種	14種	0種

注)種名・学名・配列、種数カウントは原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト[令和7年度版]』(河川環境データベース、2025年)に従った。
注)文献調査は「平成9年度黒部川渓流環境整備計画検討業務委託報告書（平成10年3月）」をもとに行った。同報告書内で参考とされた文献を以下に示す。

参考文献

1　とやまの川と湖の魚たち（田中普，1933）
2　黒部川のあゆみ（北陸地方建投局黒部事務所，1977）
3　第2回自然環境保全基礎調査，河川調査報告書（環境庁，1979）
4　第3回自然環境保全基礎調査，河川調査報告書（環境庁，1985）
5　富山県評価対象自然リスト（富山県，1993）
6　平成5年度黒部川水系（黒部川）魚介類調査報告寄（（株）建設環境研究所，1994）

※1　富山県RLでは「スナヤツメ北方種」がCR＋ENとして、「スナヤツメ南方種」がNTとして記載されている。
※2　既往調査のマルタは最新の知見よりジュウサンウグイとした。富山県RL2025ではジュウサンウグイとして記載されている。
※3　細分化前の「ドジョウ」は「ドジョウ類」として整理した。環境省RLでは「ドジョウ」がNTとして、「キタドジョウ」がDDとして記載され、富山県RL2025では「ドジョウ」がNTとして記載されている。
※4　ミナミメダカとキタノメダカの細分化前の2007年調査のメダカはミナミメダカ、キタノメダカの可能性が考えられるためメダカ類としたが、R4水国報告書では細分化前の2007年調査もミナミメダカとして整理されている。なお、ミナミメダカ、キタノメダカともに環境省RLではVUに該当し、キタノメダカは富山県RL2025ではNTに該当する。

表2-2　黒部川で確認された重要種一覧表（鳥類）

No	目名	科名	和種名	水国（河川）					水国（ダム湖）			文献調査	重要種選定基準				
				H6 (1994)	H11 (1999)	H16 (2004)	H22 (2010)	R2 (2020)	H16 (2004)	H22 (2010)	R2 (2020)		文化財保護法	種の保存法	環境省RL	富山県RL	富山県条例
1	キジ目	キジ科	ライチョウ									●	特天	国内希少	EN	CR+EN	
2	カモ目	カモ科	ツクシガモ				●								VU		
3			オシドリ		●	●	●	●	●	●	●				DD	DD	
4			ヨシガモ		●			●								NT	
5			トモエガモ	●				●							VU	VU	
6			シノリガモ			●										NT	
7			ビロードキンクロ				●									NT	
8			ホオジロガモ				●									NT	
9			ミコアイサ	●							●					NT	
10			ウミアイサ					●								NT	
11	カツオドリ目	ウ科	ヒメウ					●							EN		
12	ペリカン目	サギ科	ヨシゴイ	●											NT	CR+EN	
13			チュウサギ			●		●							NT		
14			クロサギ	●				●								CR+EN	
15	カッコウ目	カッコウ科	カッコウ	●	●	●	●									NT	
16	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	●	●	●	●	●	●							NT	
17			コチドリ	●	●	●	●	●								NT	
18			シロチドリ	●		●	●	●							VU	NT	
19			メダイチドリ	●		●		●						国内希少			
20		セイタカシギ科	セイタカシギ					●							VU	DD	
21		シギ科	オオジシギ	●											NT	DD	
22			オオソリハシシギ	●		●									VU	DD	
23			イソシギ	●	●	●	●	●								NT	
24			ハマシギ	●		●	●	●							NT		
25		カモメ科	オオセグロカモメ	●	●	●	●	●							NT		
26			コアジサシ	●	●	●	●	●							VU	CR+EN	
27			アジサシ	●	●	●	●									DD	
28	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	●	●	●	●	●							NT	NT	
29		タカ科	ハチクマ	●											NT	VU	
30			オジロワシ								●		天	国内希少	VU	VU	
31			オオワシ									●	天然	国内希少	VU	VU	
32			チュウヒ					●						国内希少	EN	CR+EN	
33			ツミ					●								VU	
34			ハイタカ			●	●	●			●				NT	VU	
35			オオタカ	●		●		●	●						NT	VU	
36			サシバ	●		●		●							VU	VU	
37			イヌワシ		●		●		●		●		天然	国内希少	EN	CR+EN	
38			クマタカ				●	●		●	●			国内希少	EN	VU	

注)種名・学名・配列、種数カウントは原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト[令和7年度版]』(河川環境データベース、2025年)に従った。
注)文献調査は「平成9年度黒部川渓流環境整備計画検討業務委託報告書（平成10年3月）」をもとに行った。同報告書内で参考とされた文献を以下に示す。

参考文献

1　黒部川のあゆみ（北陸地方建投局黒部事務所，1977）

2　追録 宇奈月町史 自然編（宇奈月町，1989）

3　富山県の鳥獣（富山県，1989）

4　富山県評価対象自然リスト（富山県，1993）

5　平成6年度黒部川河川水辺の国勢調査（鳥類調査）業務委託報告書（（株）建投環境研究所，1995）

表2-2　黒部川で確認された重要種一覧表（鳥類）

No	目名	科名	和種名	水国（河川）					水国（ダム湖）			文献調査	重要種選定基準				
				H6 (1994)	H11 (1999)	H16 (2004)	H22 (2010)	R2 (2020)	H16 (2004)	H22 (2010)	R2 (2020)		文化財保護法	種の保存法	環境省RL	富山県RL	富山県条例
39	フクロウ目	フクロウ科	コノハズク									●				VU	
40			フクロウ						●							NT	
41	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン					●		●	●					NT	
42			ヤマセミ	●	●	●		●				●				VU	
43		ブッポウソウ科	ブッポウソウ									●			EN	CR+EN	
44	キツツキ目	キツツキ科	オオアカゲラ							●						DD	
45	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	●	●	●	●	●	●	●				国内希少	VU	VU	
46	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ※	●	●	●	●	●	●	●	●	●			VU		
47		カササギヒタキ科	サンコウチョウ								●					NT	
48		ツバメ科	コシアカツバメ		●			●								DD	
49		ヨシキリ科	コヨシキリ			●										NT	
50		セッカ科	セッカ		●			●								CR+EN	
51		キバシリ科	キバシリ					●			●					DD	
52		ホオジロ科	ホオアカ					●								NT	
53	スズメ目	ホオジロ科	ノジコ	●		●	●								NT	VU	
合計	19目	25科	54種	24種	16種	23種	20種	31種	7種	6種	10種	6種	6種	9種	29種	47種	1種

注)種名・学名・配列、種数カウントは原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト[令和7年度版]』(河川環境データベース、2025年)に従った。
注)文献調査は「平成9年度黒部川渓流環境整備計画検討業務委託報告書（平成10年3月）」をもとに行った。同報告書内で参考とされた文献を以下に示す。
参考文献

1　黒部川のあゆみ（北陸地方建設局黒部事務所，1977）
2　追録 宇奈月町史 自然編（宇奈月町，1989）
3　富山県の鳥獣（富山県，1989）
4　富山県評価対象自然リスト（富山県，1993）
5　平成6年度黒部川河川水辺の国勢調査（鳥類調査）業務委託報告書（（株）建設環境研究所，1995）

※1　亜種サンショウクイを含む可能性があることからVUとした。

表2-2　黒部川で確認された重要種一覧表（陸上昆虫類）

No	目名	科名	和種名	水国（河川）				水国（ダム湖）			文献調査	重要種選定基準				
				H8 (1996)	H13 (2001)	H18 (2006)	H28 (2016)	H13 (2001)	H18 (2006)	H28 (2016)		文化財保護法	種の保存法	環境省RL	富山県RL	富山県条例
1	トンボ目（蜻蛉目）	カワトンボ科	ニホンカワトンボ		●										NT	
2		ヤンマ科	アオヤンマ		●	●	●							NT	VU	
3			マダラヤンマ		●	●	●							NT	CR+EN	
4			マルタンヤンマ		●	●									NT	
5		トンボ科	チョウトンボ		●	●									NT	
6			キトンボ		●	●									NT	
7			マイコアカネ			●									VU	
8			ミヤマアカネ	●	●	●	●			●					NT	
9	ハサミムシ目（革翅目）	クギヌキハサミムシ科	エゾハサミムシ					●	●	●					NT	
10			クギヌキハサミムシ							●					DD	
11	バッタ目（直翅目）	コオロギ科	クマスズムシ		●	●	●								DD	
12			エゾエンマコオロギ本土亜種		●	●	●								NT	
13		ヒバリモドキ科	カワラスズ					●							NT	
14		バッタ科	ヤマトマダラバッタ				●								CR+EN	
15			カワラバッタ	●	●	●	●								VU	
16		イナゴ科	セグロイナゴ		●	●	●								VU	
17	カメムシ目（半翅目）	トゲアワフキムシ科	タケウチトゲアワフキ							●					NT	
18		ヨコバイ科	スナヨコバイ				●							NT	NT	
19		ナガカメムシ科	ハマベナガカメムシ				●							NT		
20		ツチカメムシ科	ヨコヅナツチカメムシ		●										DD	
21		カメムシ科	アオクチブトカメムシ			●		●	●	●					DD	
22		キンカメムシ科	チャイロカメムシ				●			●					NT	
23		アメンボ科	オオアメンボ		●	●	●								NT	
24		コオイムシ科	オオコオイムシ		●										NT	

注)種名・学名・配列、種数カウントは原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト[令和7年度版]』(河川環境データベース、2025年)に従った。
注)文献調査は「平成9年度黒部川渓流環境整備計画検討業務委託報告書（平成10年3月）」をもとに行った。同報告書内で参考とされた文献を以下に示す。

参考文献
1　黒部川のあゆみ（北陸地方建投局黒部事務所，1977）
2　追録 宇奈月町史 自然編（宇奈月町，1989）
3　平成3年度黒部川河川水辺の国勢調査（昆虫）業務委託報告書（応用地質（株），1992）
4　富山県評価対象自然リスト（富山県，1993）
5　平成8年度黒部川河川水辺の国勢調査（陸上昆虫等）業務委託報告書（応用地質（株），1997）

表2-2　黒部川で確認された重要種一覧表（陸上昆虫類）

No	目名	科名	和種名	水国（河川）				水国（ダム湖）			文献調査	重要種選定基準				
				H8 (1996)	H13 (2001)	H18 (2006)	H28 (2016)	H13 (2001)	H18 (2006)	H28 (2016)		文化財保護法	種の保存法	環境省RL	富山県RL	富山県条例
25	トビケラ目（毛翅目）	ナガレトビケラ科	オオナガレトビケラ							●				NT		
26	チョウ目（鱗翅目）	マダラガ科	ヤホシホソマダラ				●							NT		
27		セセリチョウ科	タカネキマダラセセリ北アルプス亜種								●			NT	NT	
28		シジミチョウ科	ヒサマツミドリシジミ		●										DD	
29			オオゴマシジミ								●			NT	VU	
30			ミヤマシジミ	●	●	●	●							EN	CR+EN	
31		タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン		●									VU		
32			クモマベニヒカゲ本州亜種								●			NT	DD	
33			ベニヒカゲ本州亜種								●			NT		
34			タカネヒカゲ北アルプス亜種								●			NT	VU※	
35			オオムラサキ		●		●							NT	NT	
36		アゲハチョウ科	ギフチョウ		●									VU	DD	
37		シロチョウ科	クモマツマキチョウ北アルプス・戸隠亜種								●	県天		NT	CR+EN	
38			ミヤマモンキチョウ北アルプス亜種								●			NT	VU	
39			ツマグロキチョウ				●							EN		
40		ヤママユガ科	オナガミズアオ本土亜種						●					NT	NT	
41		ヒトリガ科	ヤネホソバ					●	●					NT		
42		ヤガ科	ガマヨトウ	●										VU		
43			ミヤマキシタバ		●			●						NT	NT	
44			ヌマベウスキヨトウ	●										VU	DD	
45	ハエ目（双翅目）	ニセヒメガガンボ科	エサキニセヒメガガンボ				●							DD	DD	
46		ミズアブ科	コガタミズアブ				●								DD	
47		ムシヒキアブ科	トラフムシヒキ		●	●				●					DD	
48			オオイシアブ	●	●		●			●					DD	
49		ツリアブ科	クロバネツリアブ			●	●								DD	
50		ハナアブ科	ケンランアリノスアブ							●				VU		

注）種名・学名・配列、種数カウントは原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト[令和7年度版]』（河川環境データベース、2025年）に従った。
注）文献調査は「平成9年度黒部川渓流環境整備計画検討業務委託報告書（平成10年3月）」をもとに行った。同報告書内で参考とされた文献を以下に示す。
参考文献

1　黒部川のあゆみ（北陸地方建投局黒部事務所，1977）
2　追録 宇奈月町史 自然編（宇奈月町，1989）
3　平成3年度黒部川河川水辺の国勢調査（昆虫）業務委託報告書（応用地質（株），1992）
4　富山県評価対象自然リスト（富山県，1993）
5　平成8年度黒部川河川水辺の国勢調査（陸上昆虫等）業務委託報告書（応用地質（株），1997）

※1　環境省RL、富山県RLでは、タカネヒカゲ飛騨山脈亜種として記載されている。

表2-2　黒部川で確認された重要種一覧表（陸上昆虫類）

No	目名	科名	和種名	水国（河川）				水国（ダム湖）			文献調査	重要種選定基準				
				H8 (1996)	H13 (2001)	H18 (2006)	H28 (2016)	H13 (2001)	H18 (2006)	H28 (2016)		文化財保護法	種の保存法	環境省RL	富山県RL	富山県条例
51	コウチュウ目（鞘翅目）	オサムシ科	クビナガキベリアオゴミムシ		●									DD		
52			オサムシモドキ	●	●	●	●								NT	
53			ヒョウタンゴミムシ			●	●								NT	
54		ゲンゴロウ科	キベリクロヒメゲンゴロウ		●									NT	VU	
55			ヒメシマチビゲンゴロウ		●	●	●			●					NT	
56			キベリマメゲンゴロウ		●	●	●							NT		
57		コガシラミズムシ科	クビボソコガシラミズムシ			●	●							DD		
58		ガムシ科	シジミガムシ	●	●	●								EN		
59		センチコガネ科	オオセンチコガネ					●	●	●					LP	
60		クワガタムシ科	ヒラタクワガタ本土亜種		●	●									VU	
61		コガネムシ科	ヤマトアオドウガネ		●	●	●								NT	
62			ミヤマダイコクコガネ					●	●						VU	
63			クロカナブン						●						NT	
64		ホタル科	ヘイケボタル		●	●									DD	
65			ゲンジボタル		●										DD	
66		ゴミムシダマシ科	キイロクチキムシ						●						DD	
67		カミキリムシ科	ヒゲナガモモブトカミキリ					●							NT	
68			ヒゲジロホソコバネカミキリ						●						CR+EN	
69			ヨツボシカミキリ		●									EN	CR+EN	
70			トラフカミキリ			●									NT	
71		ゾウムシ科	スナムグリヒョウタンゾウムシ		●	●	●								NT	
72	ハチ目（膜翅目）	アリ科	ケブカツヤオオアリ			●	●		●					DD		
73			トゲアリ					●	●	●				VU		
74		スズメバチ科	キオビホオナガスズメバチ						●	●				DD		
75			ヤマトアシナガバチ		●	●	●			●				DD	NT	
76			モンスズメバチ	●	●		●		●	●				DD		
77		クモバチ科	フタモンクモバチ		●			●						NT		
78		アナバチ科	フクイアナバチ						●					NT	DD	
79		ミツバチ科	クロマルハナバチ		●	●								NT		
80		ハキリバチ科	クズハキリバチ				●							DD	NT	
81			キバラハキリバチ				●							NT	DD	
合計	9科	48目	81種	9種	38種	30種	32種	10種	14種	16種	7種	1種	0種	41種	62種	0種

注）種名・学名・配列、種数カウントは原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト[令和7年度版]』（河川環境データベース、2025年）に従った。
注）文献調査は「平成9年度黒部川渓流環境整備計画検討業務委託報告書（平成10年3月）」をもとに行った。同報告書内で参考とされた文献を以下に示す。

参考文献

1　黒部川のあゆみ（北陸地方建投局黒部事務所，1977）

2　追録 宇奈月町史 自然編（宇奈月町，1989）

3　平成3年度黒部川河川水辺の国勢調査（昆虫）業務委託報告書（応用地質（株），1992）

4　富山県評価対象自然リスト（富山県，1993）

5　平成8年度黒部川河川水辺の国勢調査（陸上昆虫等）業務委託報告書（応用地質（株），1997）

表2-2　黒部川で確認された重要種一覧表（底生動物）

No	目名	科名	和種名	水国（河川）							水国（ダム湖）					重要種選定基準				
				H5 (1993)	H10 (1998)	H15 (2003)	H20 (2008)	H25 (2013)	H30 (2018)	R5 (2023)	H15 (2003)	H20 (2008)	H25 (2013)	H30 (2018)	R5 (2023)	文化財保護法	種の保存法	環境省RL	富山県RL	富山県条例
1	ドブシジミ目	ドブシジミ科	ドブシジミ		●			●											NT	
2	モノアラガイ目	モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ								●	●						DD		
3			モノアラガイ			●	●		●	●								NT	VU	
4		ヒラマキガイ科	カワコザラガイ				●	●	●									CR	DD	
5			ヒラマキミズマイマイ		●		●	●	●	●								DD	DD	
6			ヒラマキガイモドキ		●		●	●	●	●								NT	DD	
7	エビ目	ヌマエビ科	ミゾレヌマエビ				●	●	●	●									DD	
8			ヌマエビ		●	●	●	●	●	●									DD	
9		テナガエビ科	テナガエビ				●			●									NT	
10		サワガニ科	サワガニ		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●				NT	
11		ベンケイガニ科	アカテガニ		●		●	●	●	●									VU	
12	トンボ目（蜻蛉目）	ムカシトンボ科	ムカシトンボ		●		●		●										NT	
13		ヤンマ科	アオヤンマ			●	●	●										NT	VU	
14			マルタンヤンマ		●		●	●	●										NT	
15		トンボ科	キトンボ					●											NT	
16	カワゲラ目（セキ翅目）	トワダカワゲラ科	ミネトワダカワゲラ										●	●					DD	
17	カメムシ目（半翅目）	アメンボ科	オオアメンボ					●	●	●									NT	
18		マルミズムシ科	マルミズムシ					●											VU	
19	コウチュウ目（鞘翅目）	ゲンゴロウ科	キベリクロヒメゲンゴロウ		●			●										NT	VU	
20			ヒメシマチビゲンゴロウ		●	●	●		●	●					●				NT	
21			カノシマチビゲンゴロウ								●			●					NT	
22			キベリマメゲンゴロウ	●	●	●	●	●	●	●			●		●			NT		
23		コガシラミズムシ科	クビボソコガシラミズムシ		●	●	●	●	●	●					●			DD		
24		ガムシ科	コガムシ					●	●									DD		
25		ホタル科	ヘイケボタル			●		●		●									DD	
26			ゲンジボタル						●	●									DD	
合計	7目	17科	26種	1種	12種	8種	14種	18種	16種	14種	3種	2種	3種	3種	4種	0種	0種	10種	22種	0種

注）種名・学名・配列、種数カウントは原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト[令和7年度版]』（河川環境データベース、2025年）に従った。

表2-2　黒部川で確認された重要種一覧表（両生類・哺乳類）

No	目名	科名	和種名	水国（河川）				水国（ダム湖）			文献調査	重要種選定基準				
				H9 (1997)	H14 (2002)	H24 (2012)	R3 (2021)	H14 (2002)	H24 (2012)	R3 (2021)		文化財保護法	種の保存法	環境省RL	富山県RL	富山県条例
1	有尾目	サンショウウオ科	クロサンショウウオ								●			NT		
2			ヒダサンショウウオ						●	●	●			NT	NT	
3		イモリ科	アカハライモリ	●	●	●	●							NT	NT	
4	無尾目	アカガエル科	ナガレタゴガエル	●	●	●	●								VU	
5			ニホンアカガエル	●	●	●	●								NT	
6			トノサマガエル	●	●	●	●							NT	NT	
7	有鱗目	タカチホヘビ科	タカチホヘビ		●	●	●			●					NT	
8		ナミヘビ科	シロマダラ		●	●	●			●					NT	
9	モグラ目（食虫目）	トガリネズミ科	アズミトガリネズミ								●			NT	DD	
10		モグラ科	ミズラモグラ								●			NT	NT	
11	コウモリ目（翼手目）	ヒナコウモリ科	ヒメホオヒゲコウモリ								●				NT	
12			モリアブラコウモリ								●			VU	DD	
13			ヤマコウモリ								●			VU	DD	
14			コテングコウモリ		●	●	●	●							VU	
15			テングコウモリ		●	●	●								VU	
16	ネズミ目（齧歯目）	リス科	ニホンモモンガ								●				NT	
17		ヤマネ科	ヤマネ								●	天然			NT※	
18	ネコ目（食肉目）	イタチ科	オコジョ								●			NT	NT	
19	ウシ目（偶蹄目）	ウシ科	カモシカ	●	●	●	●	●	●	●	●	特天				
合計	8目	12科	19種	5種	9種	9種	9種	2種	2種	4種	11種	2種	0種	9種	17種	0種

注)種名・学名・配列、種数カウントは原則として『河川水辺の国勢調査のための生物リスト[令和7年度版]』(河川環境データベース、2025年)に従った。
注)文献調査は「平成9年度黒部川渓流環境整備計画検討業務委託報告書（平成10年3月）」をもとに行った。同報告書内で参考とされた文献を以下に示す。
参考文献

1　黒部川のあゆみ（北陸地方建設局黒部事務所，1977）
2　富山県の両生類・爬虫類（富山県，1987）
3　追録 宇奈月町史 自然編（宇奈月町，1989）
4　富山県評価対象自然リスト（富山県，1993）

※1　富山県RL2025 では、ニホンヤマネとして記載されている。

(7) 黒部川における代表種

黒部川の河川環境を特徴づける種（代表種）として、既往の河川水辺の国勢調査結果等をもとに選定した種は、下記に示すとおりである。

表 2-3 区間ごとの主な環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地、繁殖地

区域	主な環境の構成要素	河川環境を特徴づける種	集団分布地、繁殖（産卵）地
上流域	●水域 ・瀬と淵 ●陸域 ・ハイマツ林、針葉樹林、落葉広葉樹林 ・寄州	魚類：ニッコウイワナ 植物：ニッコウキスゲ、トウヒ、チョウセンゴヨウ、ブナ、ツガ、クロベ 鳥類：ライチョウ、イヌワシ、クマタカ、オオルリ、キセキレイ、アカゲラ 両爬哺：ニホンカモシカ、ニホンザル、ツキノワグマ	魚類：ニッコウイワナの産卵環境
中流域	●水域 ・瀬と淵 ・湿地環境 ・支川 ・湛水域 ●陸域 ・河辺性の樹林、河畔林 ・スギ、落葉広葉樹林 ・礫河原 ・中州・寄州	魚類：カジカ、ニッコウイワナ、サクラマス（ヤマメ） 鳥類：サンショウクイ、ノジコ、オシドリ 両爬哺：カジカガエル、ナガレタゴガエル、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ	魚類：サクラマス（ヤマメ）の産卵環境
下流域	●水域 ・瀬と淵 ・湧水 ・ワンド・たまり ●陸域 ・礫河原 ・中州・寄州	魚類：サクラマス（ヤマメ）、アユ、カジカ、カマキリ、ビリンゴ、トミヨ、メダカ類 植物：アキグミ、カワラハハコ 鳥類：コアジサシ、コチドリ、イカルチドリ、ハマシギ	魚類：サクラマス（ヤマメ）の越夏場 鳥類：コアジサシの集団繁殖地、ハマシギの渡りの中継地

※下線は重要種を示す。メダカ類についてはキタノメダカの可能性を含むため重要種とした。

(8)　外来種の確認状況

黒部川では特に侵略的な特定外来生物として、植物のオオキンケイギク及びオオハンゴンソウ、両生類のウシガエルが確認されており、在来種の生息・生育・繁殖への影響が懸念される。また、ウシガエルは令和 3 年度（2021 年度）調査で初めて確認された。

魚類で確認されている外来種は、ヒメドジョウ、ニジマス、国内移入のミナミメダカ、品種改良種型のコイや飼育品種のメダカであり、特定外来生物は確認されていない。

植物群落の外来植物群落のうち、草本群落のセイタカアワダチソウ群落及び木本群落のハリエンジュ群落の面積割合は経年変化を見ると増加傾向にある。

<table>
<tr><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td>１．オオキンケイギク</td><td>２．オオハンゴンソウ</td></tr>
<tr><td>  </td><td>  </td></tr>
<tr><td>３．ウシガエル</td><td>４．ハリエンジュ</td></tr>
</table>

図 2-13　主な外来生物

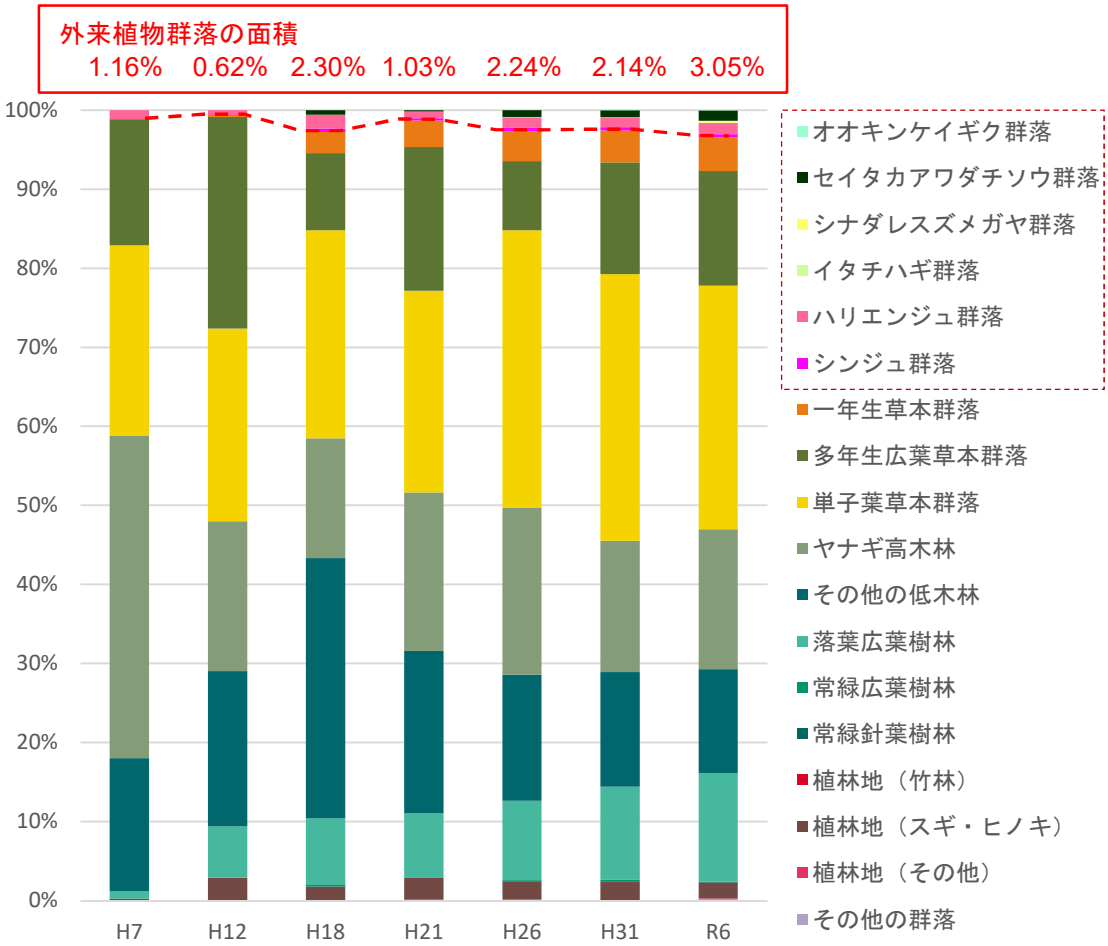


図 2-14　植物群落の面積割合の経年変化

出典：河川水辺の国勢調査

表 2-4　特定外来生物の確認状況

出典：河川水辺の国勢調査

No.	分類	種名	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16
1	植物	オオキンケイギク			●									
2		オオハンゴンソウ												
3	両生類	ウシガエル												

No.	分類	種名	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
1	植物	オオキンケイギク	●										●	
2		オオハンゴンソウ	●										●	
3	両生類	ウシガエル												

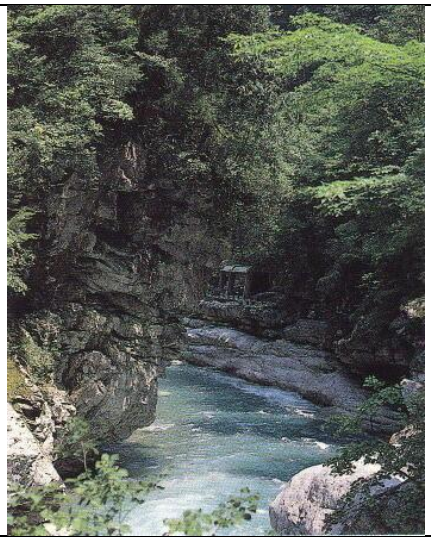
No.	分類	種名	H29	H30	H31	R2	R3
1	植物	オオキンケイギク					
2		オオハンゴンソウ					
3	両生類	ウシガエル					●

2－3　特徴的な河川景観や文化財等

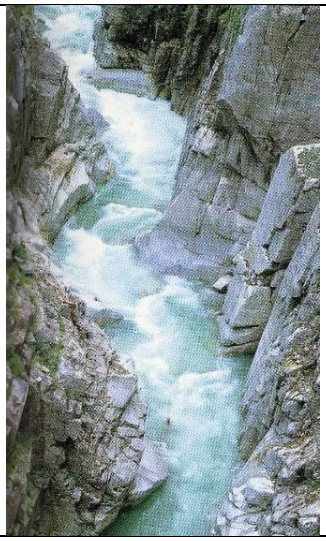
2.3.1　特徴的な河川景観

(1)　特徴的な河川景観

黒部川の代表的な河川景観として、上流域においては十字峡・S 字峡・猿飛峡等に代表されるＶ字峡谷が挙げられ、下流域では見事な扇状地形と、その中心を流れる黒部川の美しい河川景観が挙げられる。



上流域（猿飛峡）



上流域（Ｓ字峡）



下流域（扇状地）



中流域（山地帯）

出典：黒部河川事務所

図 2-15　黒部川の特徴的な景観

(2) 文化財

黒部川流域及び黒部川扇状地には、表 2-5 に示すように、国の指定史跡 1 件、県の指定史跡 3 件がある（位置図 2-20）。この他にも、流域に暮らす人々が黒部川の神に対して、怒り、暴れが無いよう水神を祀った沓掛の水神碑（図 2-16）や黒部川神社（図 2-17）等の水神碑や水神社が数多く残されている。

表 2-5 国・県指定 文化財一覧表

番号	指定別	種別	名称	所在地	指定年月日
1	国指定	史跡	じょうべのま遺跡	入善町田中	S54.5.14
2	県指定	史跡	生地台場	黒部市生地	S40.10.1
3	県指定	史跡	嘉暦四歳銘五輪石塔	黒部市栃沢	S40.2.1
4	県指定	史跡	北野の石龕	黒部市北野	S40.2.1

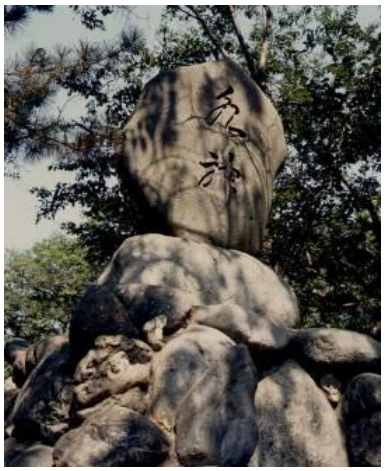


図 2-16 沓掛の水神碑



図 2-17 黒部川神社

(3) 名勝及び天然記念物

黒部川流域及び黒部川扇状地には、表 2-6 に示すように国の特別名勝・特別天然記念物 1 件、国の特別天然記念物 3 件、国の指定天然記念物 2 件、国の登録文化財 1 件、県の指定天然記念物 6 件がある（位置図 2-20）。黒部川では、上流域は大部分が山地であり中部山岳国立公園にも指定されていることから、図 2-18 に示すような白馬連山高山植物帯、ライチョウ、カモシカ等が特別天然記念物に指定されている。また、図 2-19 に示すように黒部川扇状地の末端部での湧出地域にある杉沢の沢スギ等が天然記念物に指定されているなど、貴重な自然環境に恵まれていることが分かる。

表 2-6　国・県指定　名勝及び天然記念物一覧表

番号	指定別	種　　別	名　　称	所　在　地	指定年月日
1	国指定	特別名勝 特別天然記念物	黒部峡谷猿飛附 ならびに奥鐘山	黒部市 （旧宇奈月町）	S31.9.7
2	国指定	特別天然記念物	白馬連山高山植物帯	黒部市 （旧宇奈月町）	S27.3.29
3	国指定	特別天然記念物	ライチョウ	－	S30.2.15
4	国指定	特別天然記念物	カモシカ	－	S30.2.15
5	国指定	天然記念物	イヌワシ	－	S40.5.12
6	国指定	天然記念物	杉沢の沢スギ	入善町吉原	S48.8.4
7	国登録	登録文化財	入善町下山芸術の森アート スペース（旧下山発電所）	入善町下山	H8.12.20
8	県指定	天然記念物	下山八幡社の大藤と境内林	入善町下山	S40.1.1
9	県指定	天然記念物	小摺戸の大藤	入善町小摺戸	S40.1.1
10	県指定	天然記念物	宇奈月の十字石	黒部市 （旧宇奈月町）	S40.1.1
11	県指定	天然記念物	内山のとちの森	黒部市 （旧宇奈月町字大尾）	S40.1.1
12	県指定	天然記念物	愛本のウラジロカシ林	黒部市 （旧宇奈月町愛本）	S42.9.26
13	県指定	天然記念物	明日の大桜	黒部市宇奈月町	S40.1.1

出典：富山県庁 HP



白馬岳を中心に 3,000m 級の高山が連なり、富山、新潟、長野県にまたがるその広大な地域には、多種多様の高山植物が分布している。

図 2-18　白馬連山高山植物



黒部川扇状地の末端部で、小川が流れ地下水の湧出する地域に、スギの多い林。全国でも珍しい平地での伏条更新を見ることができる。

図 2-19　杉沢の沢スギ

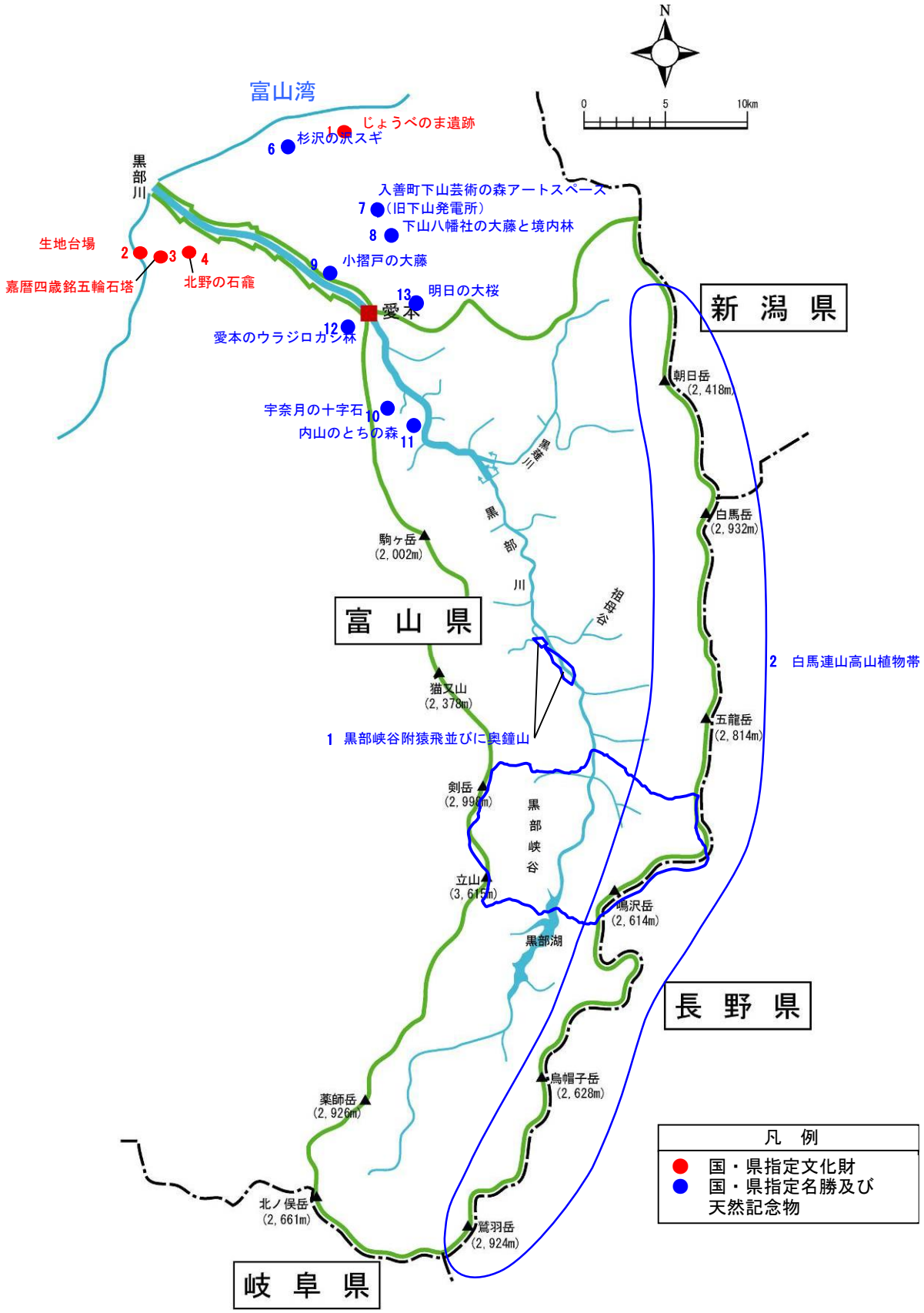


図 2-20　黒部川にかかわる名勝及び天然記念物、文化財位置図

2－4　自然公園等の指定状況

黒部川流域には、表 2-7 に示す通り、北アルプスを中心とした中部山岳国立公園（昭和 9 年（1934 年）指定）と、富山県東部の宮崎海岸から城山、黒部川の支川・北又谷に至る迄の海岸や丘陵、山岳、渓谷等、多くの要素を含んだ朝日県立自然公園（昭和 48 年（1973 年）指定）の 2 ヶ所の自然公園がある。

自然保護に関する指定は表 2-8、表 2-9 の通りである。

表 2-7　黒部川流域自然公園指定状況

種別	公園名	関係市町村	指定年月日及び内容
国立公園	中部山岳国立公園 76,431ha(全域)	黒部市（旧宇奈月町） 富山市（旧大山町） 立山町 朝日町	S9.12. 4　区域指定 S13.12.17　特別地域指定 S40.12.22　特別地域一部変更 S44.1.10　特別地域追加指定
県立公園	朝日県立自然公園 9,623ha(全域)	黒部市（旧宇奈月町） 朝日町	S48.3.13

出典：富山県 HP

表 2-8　黒部川流域鳥獣保護区特別保護地区状況

名　　称	所在地 関係市町村	面　積(ha)
立山特別保護地区	黒部市（旧宇奈月町） 富山市（旧大山町） 立山町	12,485（全域）
北アルプス特別保護地区	富山市（旧大山町）	1,244（流域内）

表 2-9　黒部川流域鳥獣保護区状況

名　　称	所在地 関係市町村	面　積(ha)
北アルプス鳥獣保護区	富山市（旧大山町） 黒部市（旧宇奈月町） 立山町 朝日町	64,819（全域）
黒部川河口鳥獣保護区	黒部市 入善町	68

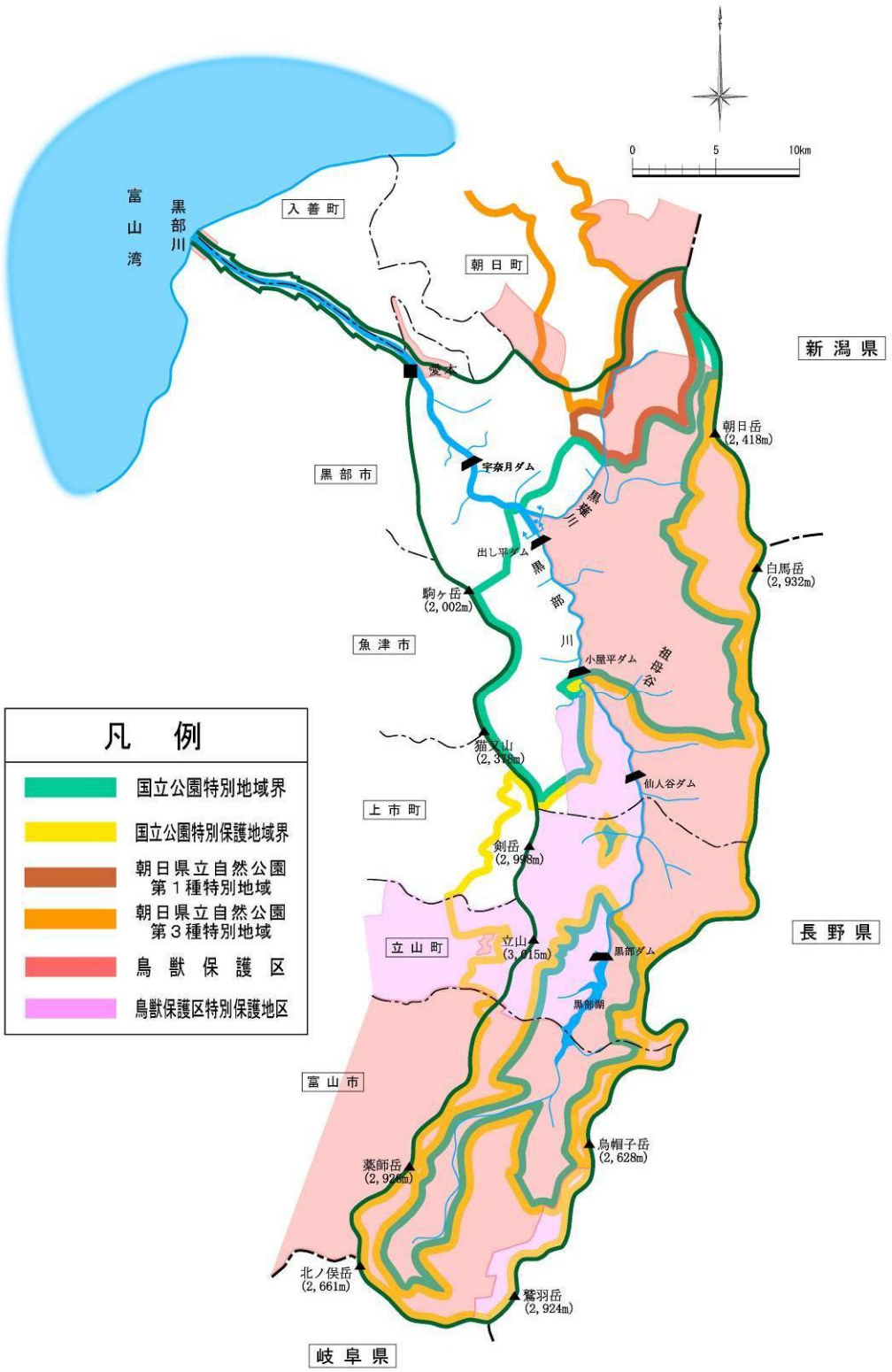


図 2-21　黒部川流域の自然公園

第3章　流域の社会状況

3－1　土地利用

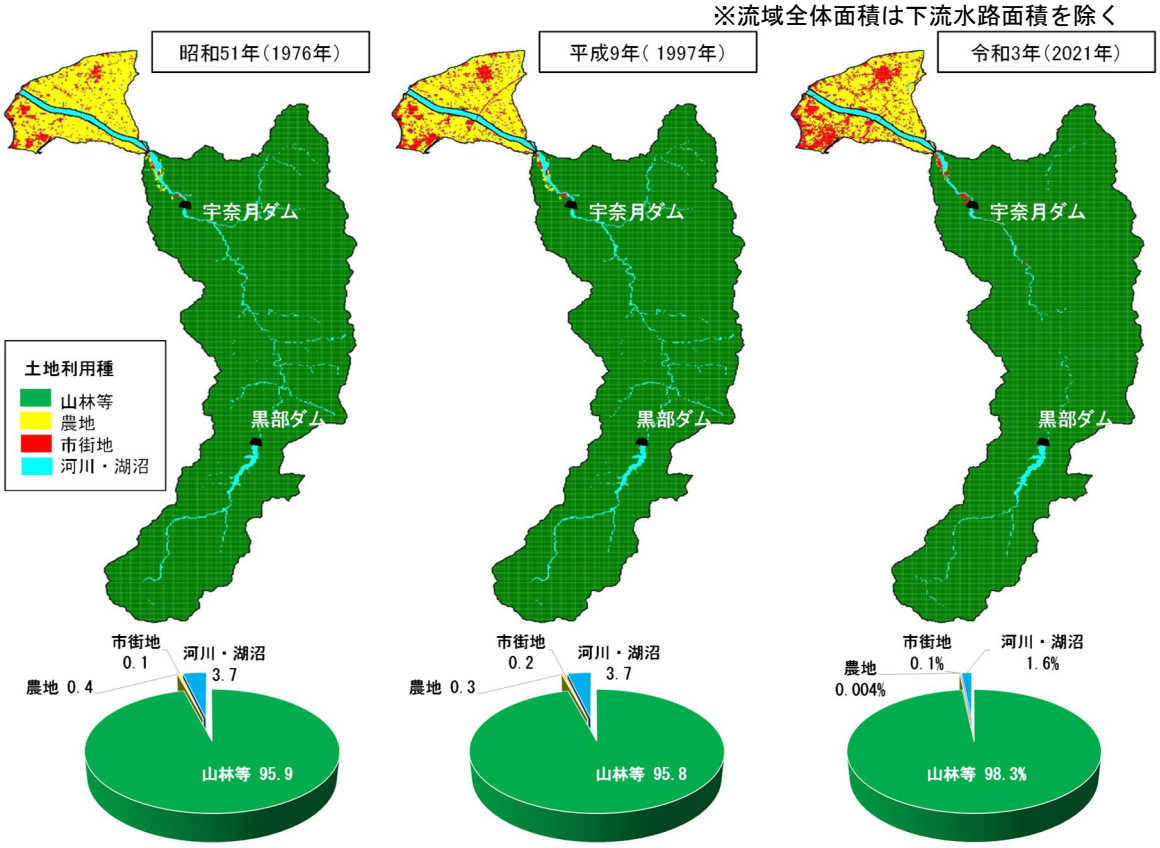
黒部川流域は、表 3-1 に示すように、山地面積が約 98%を占めており、平地面積はごく僅かである。そのため流域内の土地利用は、図 3-1 に示すように、山地等が約 98%、水田や畑地、宅地等が約 2%となっている。

黒部川流域の下流には広い扇状地 120km^2 を有しており、地下水を利用した土地利用が成されている。

表 3-1　黒部川流域地形別面積（調査基準年：平成22年度（2010年度）末）

	流域面積	山地	平地
面積（km^2）	682.0	669.2	12.8
構成比（%）	100.0	98.1	1.9

※流域全体面積は下流水路面積を除く



資料：国土数値情報　土地利用細分メッシュデータ（昭和 51 年（1976 年）、平成 9 年（1997 年）、令和 3 年（2021 年））に基づき集計

図 3-1　黒部川流域の土地利用状況

3－2　人口

黒部川流域は黒部市、富山市、入善町、朝日町、立山町の2市3町となっている。流域内に山地を多く抱えていることや、5 市町の市街地の多くが他河川の流域に位置していることなどから、流域内人口は約 3,000 人（平成 7 年（1995 年）河川現況調査）と少ない。

想定氾濫区域内人口で見た場合、黒部川扇状地に位置する関係市町（黒部市、入善町、朝日町）の人口は約 75,000 人であり、減少傾向が見られるが世帯数は増加傾向にある。一方で、図 3-3 に示すように、昭和 55 年（1980 年）と令和 2 年（2020 年）を比較すると高齢化率は 12.2%から 35.4%に大きく変化している。

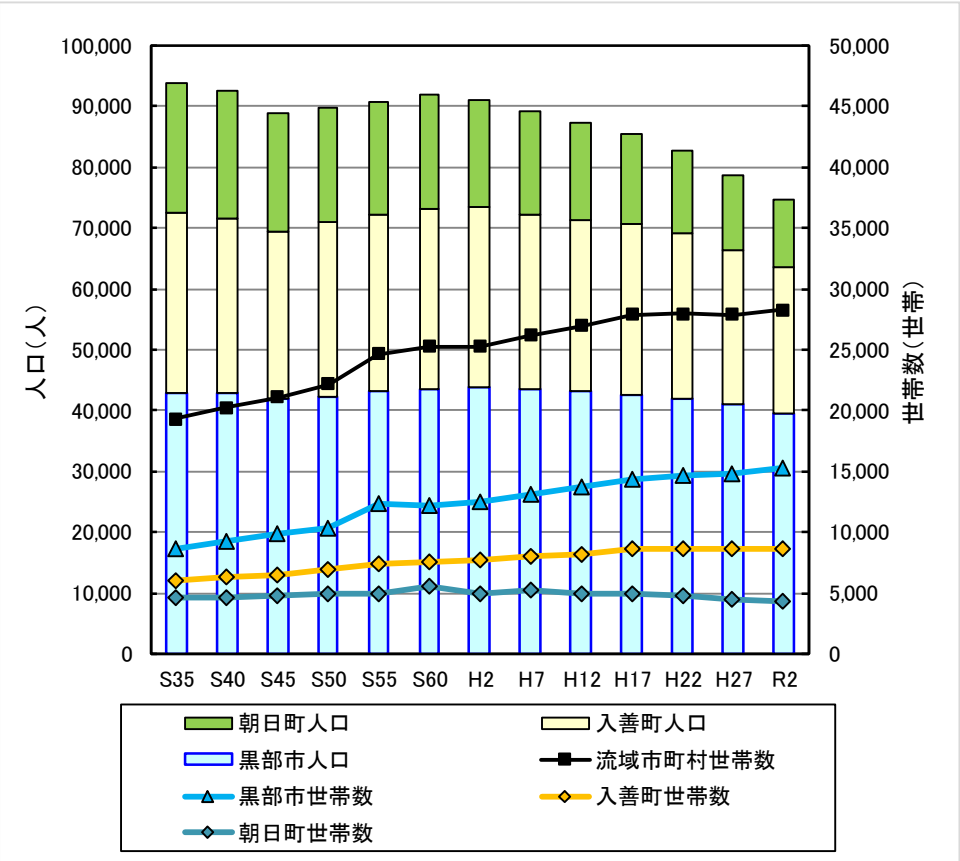


図 3-2　関係市町の人口・世帯数の推移

表 3-2　関係市町の人口・世帯数の推移

■黒部川流域関係市町村の人口の推移

市町村名	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
黒部市	42,853	43,019	41,847	42,338	43,096	43,588	43,754	43,439	43,084	42,694	41,852	40,991	39,638
入善町	29,658	28,548	27,638	28,542	29,163	29,551	29,625	28,886	28,276	28,005	27,182	25,335	23,839
朝日町	21,343	21,011	19,311	19,083	18,631	18,819	17,569	17,007	15,915	14,700	13,651	12,246	11,081
合計	93,854	92,578	88,796	89,963	90,890	91,958	90,948	89,332	87,275	85,399	82,685	78,572	74,558

■黒部川流域関係市町村の世帯数の推移

市町村名	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2
黒部市	8,615	9,317	9,829	10,404	12,293	12,199	12,524	13,061	13,761	14,282	14,628	14,793	15,238
入善町	6,082	6,276	6,518	6,943	7,381	7,525	7,736	7,953	8,240	8,708	8,658	8,628	8,699
朝日町	4,650	4,673	4,780	4,864	4,969	5,545	5,005	5,179	4,946	4,881	4,718	4,514	4,353
合計	19,347	20,266	21,127	22,211	24,643	25,269	25,265	26,193	26,947	27,871	28,004	27,935	28,290

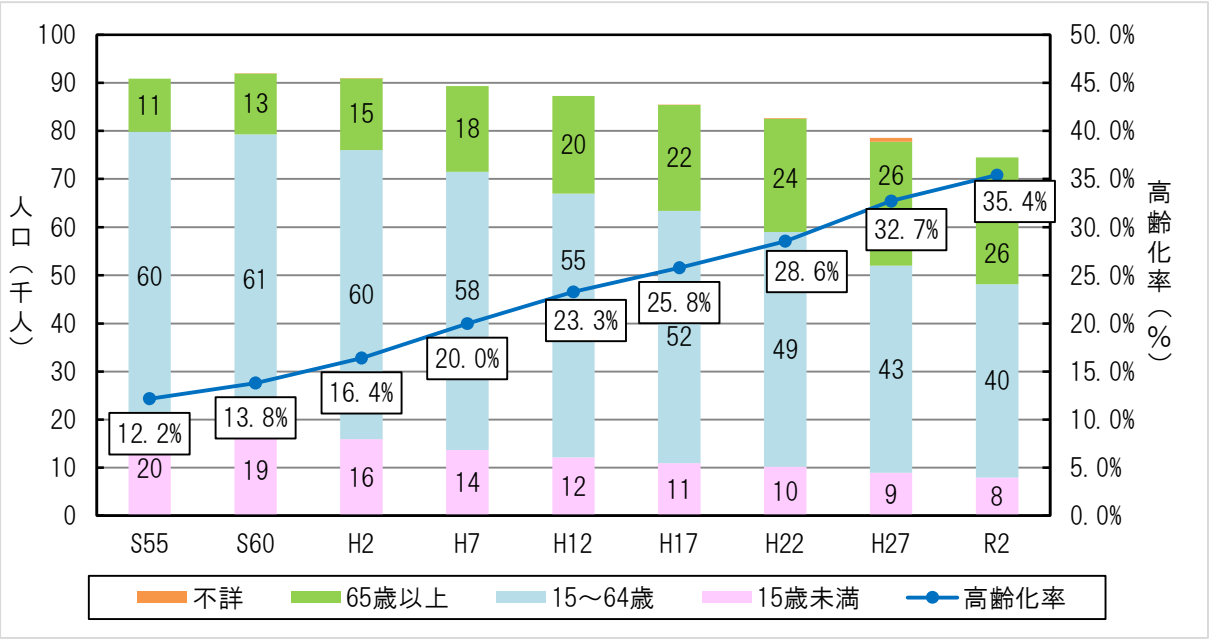


図 3-3　黒部川沿川の高齢化率の推移

3−3　産業

流域内には、黒部峡谷や宇奈月温泉に代表される観光資源が位置しており、観光産業が流域の主力産業となっている。そのため、流域内の労働力人口の構成比も表3-3に示すように7割強が第三次産業となっている。その事業所数も184事業所（平成22年（2010年）河川現況調査）となっている。観光地である黒部峡谷へは、令和5年（2023年）に開湯100周年を迎えた宇奈月温泉街から黒部峡谷鉄道がトロッコ電車を運行しており、年間40～60万人もの観光客が利用している。また、上流の黒部ダムには富山県と長野県間の北アルプスを縦貫する山岳観光ルートの「立山黒部アルペンルート」が整備され、登山客をはじめ多くの観光客が利用している。令和8年（2026年）からは「黒部宇奈月キャニオンルート」が欅平（けやきだいら）～黒部ダム間で一般開放されるなど、更なる交流人口の増加が期待される。

黒部川流域では古くから電源開発が行われており、大正12年（1923年）12月の弥太蔵発電所を皮切りに、現在では28箇所の発電所が稼働し、総最大出力約99万kWの電源供給が行われ、この電力の大部分は関西地方に送られている。

下流部の黒部川扇状地における関係市町の産業就労人口の推移を見ると、図3-4に示すように、就業者数は経年的に減少傾向にある中、第二次産業と第三次産業の就業者数は同程度にあって、ほぼ横ばいを維持している。この第二次産業の中には、全国屈指の生産量となっているアルミサッシ等の軽金属産業や出荷額世界一位のファスナーをはじめとする機械・金属関連産業、豊富な地下水を利用した飲料産業等も含まれ、図3-5に示すように、近年は大規模工場の進出も見られる。このため製造品出荷額等は、図3-6に示すように、一時期減少傾向にあったが近年は増加に転じている。

一方、第一次産業の労働力人口は減少傾向にある。黒部川扇状地内における業種の内訳は、農業と漁業に大別され、農業は稲作を中心に約6,000haで作付されている。耕地面積は横ばい傾向にあるが、1経営体当たりの耕地面積は平成17年（2005年）から平成27年（2015年）の間で約2倍となり、農業の大規模化が進んでいる他、近年は農作物の海外輸出も進んでいる。これら農地のかんがい用水として黒部川の水が利用されている。

また、海面漁業の漁獲量は23,309t（令和2年（2020年）富山県統計年鑑）、内水面漁業の漁獲量は104t（令和2年（2020年）富山県統計年鑑）となっている。

表 3-3　流域内の労働力構成人口と事業所数

調査年	労働力人口	全産業人口	第一次産業	第二次産業	第三次産業
平成7年 (1995年)	1,905(100%)	1,837	31(1.6%)	458(24.0%)	1,348(70.8%)
平成22年 (2010年)	1,128(100%)	1,084	25(2.2%)	254(22.5%) 18事業所	805(71.4%) 184事業所

※出典：平成22年河川現況調査

表 3-4　耕地面積と経営体当たり耕地面積の推移

調査年	経営耕地面積(ha)	1経営体当たり面積（ha/戸）
平成17年(2005年)	6,081	1.83
平成27年(2015年)	6,054	3.46

※出典：農業センサス、黒部市と入善町の合計値より算出

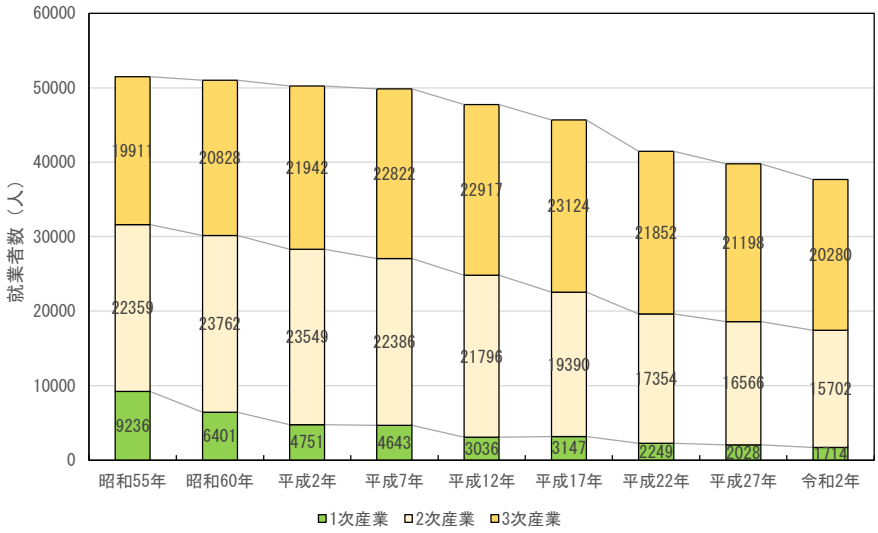


図 3-4　関係市町の産業就労人口の推移

出典：国勢調査



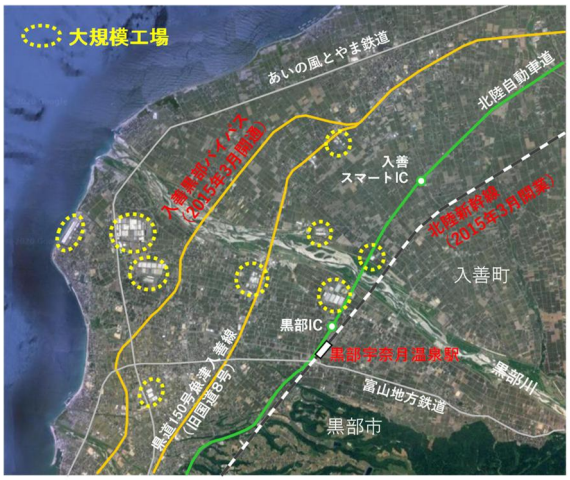


図 3-5　黒部川周辺の大規模工場群

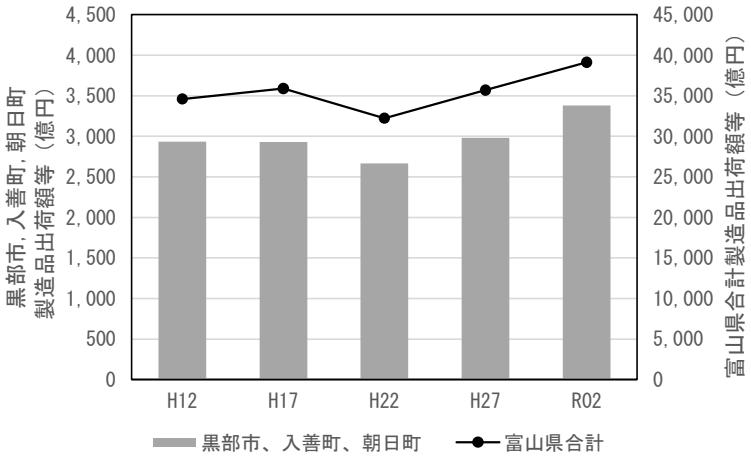


図 3-6　製造品出荷額等の推移

出典：富山県県勢要覧

3−4　交通

広域交通網としては、図 3-7 に示すように、国道 8 号・北陸自動車道や、あいの風とやま鉄道・北陸新幹線が整備され、日本海側の主要交通網が通過している。その他主要地方道や富山地方鉄道、黒部峡谷鉄道が流域を縦断する形で整備されており、交通の要衝となっている。

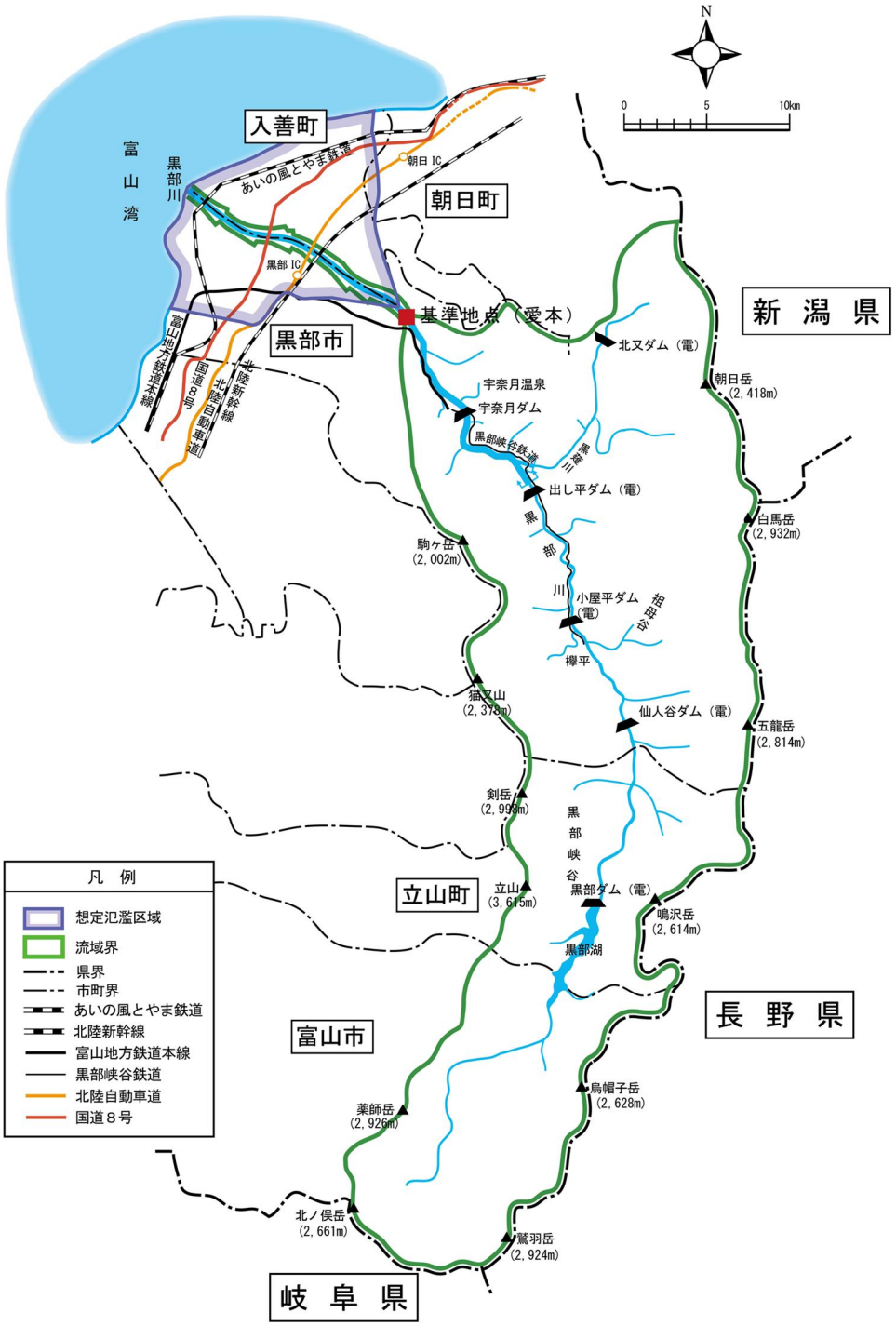


図 3-7　黒部川流域の交通網

第4章　水害と治水事業の概要

4－1　既往洪水の概要

黒部川は、扇状地を流れる急流河川であり、流れが速く土砂を多く含んだ洪水流によって、幾度となく堤防の決壊による氾濫を繰り返してきた。このような洪水の対策として、霞堤や巨大水制、大規模河床掘削等を実施し、近年では縦工※による整備を行っている。また、平成13年（2001年）には宇奈月ダムが完成し、出し平ダム（関西電力（株））との連携排砂・通砂を実施している。平成28年（2016年）より、中小洪水時における流向の改善を図り、河岸侵食及び洗掘を抑制するため、巨石付き盛土砂州による河岸防護工を実施している 。

年間降水量は、下流域の朝日で約 2,700mm、宇奈月で約 3,600mm、上流の峡谷地にある仙人谷 4,100mm 程度である。

洪水要因の多くは梅雨前線によるものである。黒部川では、梅雨前線が黒部峡谷に沿って発達し、流域に停滞した場合に大雨となる傾向にある。

黒部川においては古くから洪水の被害の記録が見られる。表 4-1 に資料の整っている明治24年（1891年）以降の主要洪水の概要について示すとともに、図 4-1 に洪水による主な被災状況について示す。

※　縦工とは河相の変化により堤防沿いの高水敷化した寄り州を維持し、堤防の保護効果を期待する河岸侵食防止工をいう。

表 4-1　黒部川流域の主要な洪水

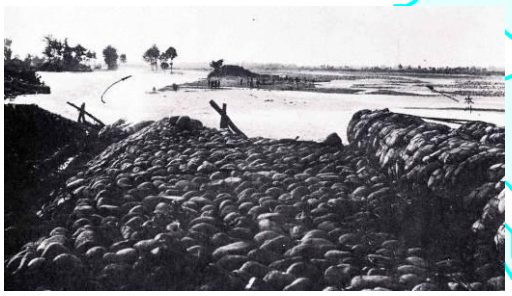
洪水発生 年月日	要因	流域平均2日雨量 （愛本上流域）	流量 （愛本）	被災状況
明治24年（1891年） 7月19日	集中豪雨	－	－	堤防の決壊・侵食等 家屋全半壊：42戸
明治42年（1909年） 9月21日	台風	－	－	堤防侵食等：4箇所 浸水面積：14ha
大正元年（1912年） 7月22日	集中豪雨	－	－	堤防決壊：10箇所 浸水面積：1,078ha 家屋全半壊：147戸 家屋浸水：1,078戸
大正3年（1914年） 5月22日、7月26日 8月13日	集中豪雨 及び 台風	－	－	堤防侵食等：30箇所 浸水面積：85ha 家屋浸水：40戸
昭和9年（1934年） 7月12日	梅雨前線	－	約3,100m³/s	堤防決壊：4箇所 浸水面積：約1,562ha 家屋全半壊：212戸 家屋浸水（床上）：621戸 家屋浸水（床下）：252戸
昭和27年（1952年） 7月1日	梅雨前線	328mm	約4,900m³/s	堤防決壊：6箇所、堤防侵食等：7箇所 浸水面積：約4,000ha 家屋浸水（床上）：37戸 家屋浸水（床下）：88戸
昭和32年（1957年） 7月9日	梅雨前線	348mm	約3,600m³/s	堤防侵食等：1箇所、水制破損：4箇所 護岸倒壊：1箇所
昭和44年（1969年） 8月11日	前線	408mm	約5,700m³/s	堤防決壊：3箇所 護岸倒壊：3箇所、水制流出：2箇所 浸水面積：約1,050ha 家屋全半壊：7戸 家屋浸水（床上）：436戸 家屋浸水（床下）：410戸 愛本堰堤損傷
平成7年（1995年） 7月11日	梅雨前線	429mm	約2,400m³/s	護岸倒壊：3箇所、河岸侵食：6箇所 漏水：1箇所 中流域で約600万m³土砂堆積 発電所・観光施設被害

平成 8 年（1996 年） 6 月 25 日	梅雨前線	325mm	約 2,200m³/s	護岸倒壊：1 箇所、河岸侵食：4 箇所
平成29年（2017年） 7 月 4 日	梅雨前線 及び 台風	290mm	約 1,200m³/s	河岸侵食：2 箇所

※流量は愛本堰堤で観測された流量である（ただし、昭和 44 年洪水は推定値）
※昭和 44 年洪水の被害の状況については「水害統計（建設省）」による
※昭和 44 年洪水以外は、「出水記録　北陸地方整備局」及び黒部河川事務所資料による



平成 7 年（1995 年）7 月洪水
JR 北陸本線（現あいの風とやま鉄道）
鉄橋上流左岸の護岸被災状況



昭和 9 年（1934 年）7 月洪水
五郎八の堤防の決壊状況



平成 29 年（2017 年）7 月洪水
若栗（L7.4k）の河岸侵食状況



昭和 27 年（1952 年）7 月洪水
愛本堰堤管理棟より吹き出す流水





昭和 44 年（1969 年）8 月洪水
福島の堤防決壊状況（出水中）



平成 8 年（1996 年）6 月洪水
愛本堰堤下流の流況



昭和 44 年（1969 年）8 月洪水
愛本堰堤における流況

図 4-1　黒部川における主な洪水の被災状況

(1)　昭和9年（1934年）7月12日洪水

停滞した梅雨前線により、7 月 9 日の午後から降り出した雨は夕方には豪雨となり、その後も連日降り続いた。平素は千個（約 30m³/s）内外の水量であるが、これが警戒水量 3 万 6 千個（約 1,000m³/s）や危険水量 5 万個（約 1,400m³/s）をはるかに超過し、最高 11 万個（約 3,100m³/s：愛本堰堤実績値）にまで達した。

このため、黒部川左岸の若栗、大布施、下立堤及び右岸の新屋堤において約 710m にわたって破堤し、その被害は死者 7 名、負傷者 133 名、家屋の全半壊 212 戸、床上浸水 621 戸、床下浸水 252 戸、浸水面積 1,562ha に及んだ。生地町では浸水家屋が 700 戸を超え、特に宮川町、大町、四十物町裏手の小学校付近では水深が約五尺に達するとともに、町の本通り及び海岸通り以外の地区は二尺以上の浸水被害があった。また、田畑の被害面積は、田が約 994ha、畑が約 29ha に及んだ。

この洪水が契機となり、黒部川改修は昭和 12 年から国の直轄事業となった。

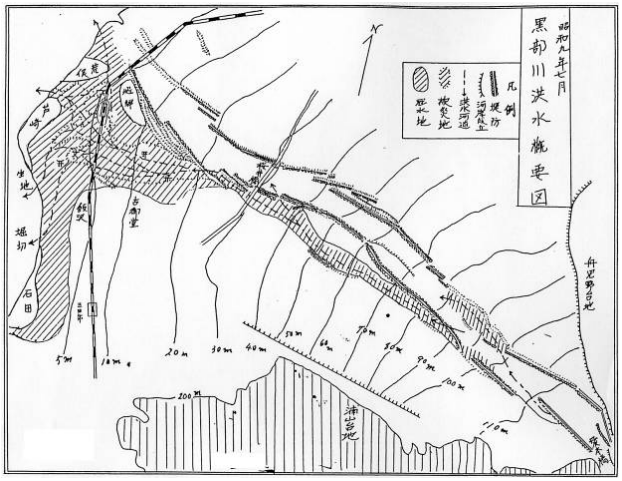


図 4-2　昭和 9 年 7 月洪水氾濫域図

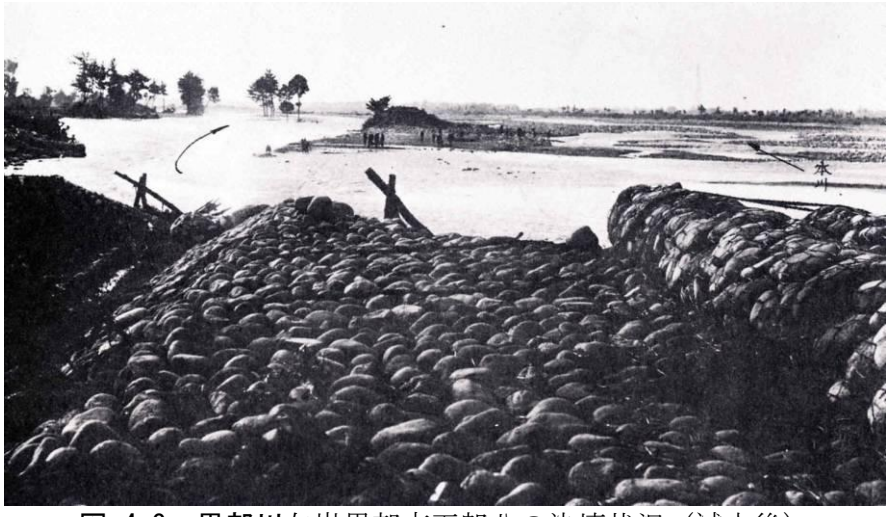


図 4-3　黒部川左岸黒部市五郎八の決壊状況（減水後）

(2) 昭和27年（1952年）7月1日洪水

梅雨前線により、黒部川流域で6月29日夕方から降りはじめた雨は、一旦は小康状態となったが、7月1日早朝から再び時間30mmを超える雨が降り、上流域の仙人谷雨量観測所では、6月29日16時から7月1日19時迄の連続雨量が252mm、中流域の柳河原雨量観測所では484mmに達した。

7月1日10時に当時の計画高水流量4,200m^3/sを超える約4,900m^3/s（愛本堰堤実績値）の流量を記録した。

この時の出水は、昭和9年（1934年）の洪水以来であり、昭和12年（1937年）の黒部川直轄事業着手以降では、最大規模の洪水となった。左岸の黒部市の若栗（わかぐり）にて3箇所、宇奈月町の浦山（うらやま）、上浦山（かみうらやま）、下立（おりたて）では、それぞれ1箇所、総延長約1,500mに渡って破堤した。若栗堤からの氾濫流は国道を乗り越え、約4kmの距離をわずか1時間半足らずで流れ、その幅も1kmから1.5kmにも及んだ。この時の被害は、床上浸水37戸、床下浸水88戸、田畑流出約4,000haに及んだ。

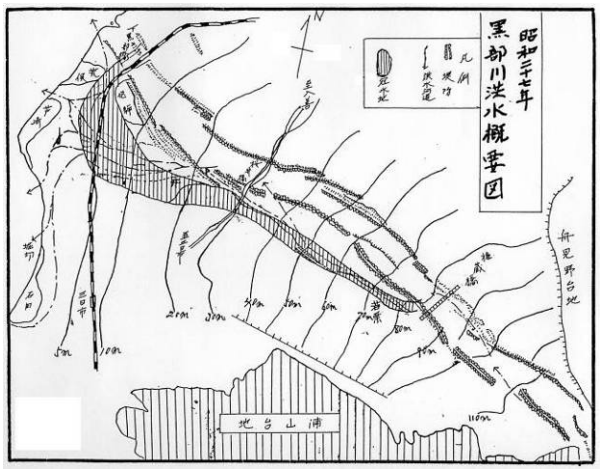


図 4-4 昭和27年7月洪水氾濫区図



図 4-5 愛本堰堤管理棟より吹き出す流水



図 4-6 黒部市荻生被災状況

(3) 昭和32年（1957年）7月9日洪水

梅雨前線に起因する集中豪雨により、富山県内では60mmから100mmの降雨を観測した。特に県東部・黒部川流域の山岳地帯では、7月7日13時から9日10時までに、仙人谷雨量観測所で451mm、小屋平雨量観測所で399mm、猫又雨量観測所では322mmを観測した。この豪雨により約3,600m^3/s（愛本堰堤実績値）の流量を記録し、黒部川左岸・黒部市荒俣で堤防侵食等200m、右岸・入善町浦山新で護岸倒壊200m、水制破損4箇所の被害が発生した。

(4) 昭和44年（1969年）8月11日洪水

8 月 8 日から 9 日朝にかけて県東部・黒部川流域の山岳地帯に 100～150mm の大雨が降り、一旦、小康状態となったものの、新潟県を北上していた前線が再び南下し、10 日夜半から 11 日にかけ、山岳地帯に 500mm を超す豪雨が発生した。その後も、雨は小康状態を保つものの降り続け、結局、7 日朝から 12 日朝迄の 5 日間で黒部川上流域の総雨量は 1,000mm を超え、記録的な豪雨となった。

このため、8 日 7 時 30 分に愛本で警戒流量 700m^3/s の倍近い 1,300m^3/s が流れ、大洪水となった。9 時には一旦警戒流量を下回ったが、翌 11 日 5 時に再び警戒流量を超え、その後も増水し、14 時 45 分には昭和 27 年（1952 年）の洪水 4,869m^3/s 及び計画高水流量 4,200m^3/s を大幅に上回る 5,661m^3/s（宇奈月観測所より推定）の既往最大流量を記録した。

このときの被害は、黒部川右岸・入善町南島で 1 箇所、福島で 2 箇所、総延長約 580m に渡り破堤し、さらに、黒部川左岸の扇頂部にて溢水し、その氾濫面積は約 1,050ha に及んだ。一般被害は、家屋流失・全壊が 7 戸、半壊・床上浸水が 436 戸、床下浸水が 410 戸に及び、さらに、愛本堰堤の操作室の水没や管理橋損壊により、北陸電力（株）所管の黒部第 1 から第 6 迄の発電施設が 8 月末まで使用不能となった。また、扇頂部上流についても、関西電力（株）所管の柳河原発電所、黒薙発電所、愛本発電所が土砂流入により発電不能となった他、黒部関電軌道（現黒部峡谷鉄道）が 10 月 24 日まで、路線欠損により宇奈月から欅平までの区間が不通になるなど、甚大な被害が発生した。

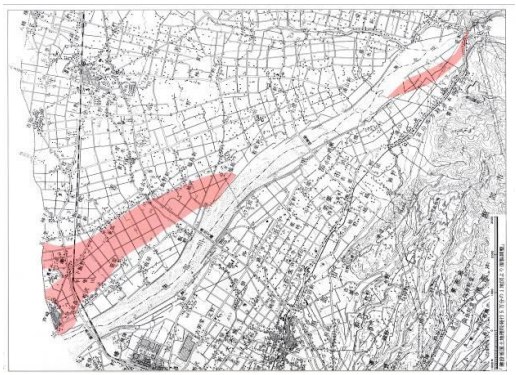


図 4-8　昭和 44 年 8 月洪水氾濫域図



図 4-7　逆巻く濁流（愛本堰堤操作棟）



図 4-9　家屋の被害状況（旧 宇奈月町下立）



図 4-10　黒部川右岸入善町福島の破堤状況



図 4-11　河岸侵食による水防活動実施状況

(5)　平成7年（1995年）7月11日洪水

北陸地方に停滞した梅雨前線により、黒部川流域で7月10日夜から降り出した雨は、11日の昼過ぎから非常に激しい雨に変わり、流域全体に広がった。猫又（ねこまた）雨量観測所では11日17時から18時までの1時間に64mmの雨量を記録し、11日から13日未明までの連続雨量は508mmに達し、記録的な豪雨となった。

この雨により愛本堰堤では11日16時20分に警戒流量（700m^3/s）を超え、18時過ぎに急激な増水が発生し、20時に既往最大となった昭和44年（1969年）の洪水に次ぐ2,378m^3/sの流量を記録した。

この洪水による被害は、護岸倒壊3箇所（総延長700m）、河岸侵食6箇所（総延長1,210m、最大侵食幅80m）、漏水1箇所等となった。入善町板屋の漏水発生現場では、水防団による懸命な水防活動により破堤等の大惨事は免れた。また、黒部川上流域では、発電所における浸水・土砂流出により発電が停止し、宇奈月温泉の引湯管も破損し給湯が停止した、黒部峡谷鉄道も土砂災害により大きな被害を受けた。



図 4-12　漏水による水防活動状況



図 4-13　河岸侵食等により被災した護岸

(6)　平成8年（1996年）6月25日洪水

活発化した梅雨前線により、黒部川流域では6月24日17時頃から強い雨が降り出した。その後、非常に激しい雨に変わり、猫又雨量観測所では25日1時から13時間にわたり時間10mmを超える雨量を記録し、25日9時には時間28mmを観測した。この結果、猫又雨量観測所で連続雨量344mmの豪雨となった。

愛本堰堤では、25日3時15分に警戒流量（700m^3/s）を上回り、12時30分には最大流量約2,200m^3/sを観測した。同程度の洪水は前年度も発生している。

流域内の被害は、護岸欠損1箇所、河岸欠損4箇所、上流域では土砂流出により黒部峡谷鉄道が不通になり、新黒部川第2発電所、黒部川第2発電所、愛本発電所では発電を停止する被害が発生した。

4－2　治水事業の経緯

黒部川は昔、黒部四十八ヶ瀬と言われ、洪水の度に氾濫、主流の移動を繰り返し、数多くの脈流を形成した。記録によれば、黒部川の主流は元禄年間以前には、愛本から右岸墓の木を通過し、現在の金山、古黒部から日本海に注いでいたが、その後、西側に主流が移動し、現在の位置に落ち着いたと考えられている。

黒部川の治水事業の歴史は古く、江戸時代では、領主前田利家によって殖産興業の基盤として治山・治水が計画され、黒部川両岸を築堤した記録が残っている。

近代における黒部川の治水事業の沿革については表 4-2 に示す通りである。近代における最初の治水事業は、明治 15 年（1882 年）に完成した福島から下飯野村の間で行われた築堤工事で、以来、築堤工事が進められた。明治 24 年（1891 年）にはオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケら外国人技師を招き、その指導から霞堤が積極的に採用された。

その後、昭和 9 年（1934 年）7 月洪水を契機に、昭和 12 年（1937 年）より国の直轄事業として、愛本地点における計画高水流量を 4,200m³/s とする改修事業に着手した。昭和 21 年（1945 年）から、急流河川対策に、当時としては画期的なコンクリートを使用した巨大水制や根固工が施工された。また、天井川対策として大型機械・タワーエキスカベーターを使用した大規模な河床掘削が実施された。

その後、昭和 45 年（1970 年）4 月の一級河川指定に伴い、昭和 46 年（1971 年）3 月に従来の改修計画を踏襲した黒部川水系工事実施基本計画を策定した。

しかし、前年の昭和 44 年（1969 年）8 月に当時の計画高水流量を上回る約 5,700m³/s（宇奈月観測所より推定）の洪水が発生していたことから、昭和 50 年（1975 年）3 月に基準地点愛本における基本高水のピーク流量を 7,200m³/s と定め、このうち 1,000m³/s を上流ダム群によって調節し、河道への配分流量を 6,200m³/s とする工事実施基本計画の改定を行った。この計画に基づき昭和 54 年（1979 年）に宇奈月ダム建設に着手（平成 13 年（2001 年）に完成）するとともに、昭和 50 年（1975 年）代以降は河床洗掘による破堤対策として、水衝部では護岸の根継を実施したほか、平成 3 年（1991 年）からは高水敷に堤体保護機能を持たせるべく、縦工による急流河川対策を実施している。

平成 18 年（2006 年）9 月には、河川法改正に伴い黒部川水系河川整備基本方針が策定され、基準地点愛本における基本高水のピーク流量を 7,200m³/s とし、このうち、宇奈月ダムにより 700m³/s を調節して、図 4-14 に示すように、計画高水流量（河道への配分流量）を 6,500m³/s としている。

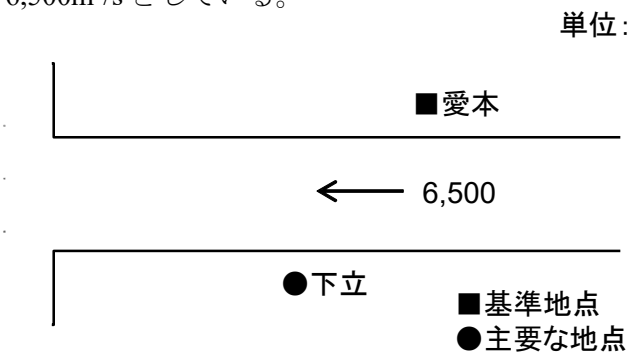


図 4-14　計画高水流量配分図

砂防事業は、昭和 8 年（1933 年）に富山県が支川で渓流保全工を施行し、その後、昭和 36 年（1961 年）に下流河川の河床上昇の要因である上流荒廃地からの土砂流出を抑制するため、直轄砂防工事に着手し事業を展開している。

海岸事業は、海岸侵食による国土消失防止及び沿岸地域の波浪による被害防止のため、昭和 35 年（1960 年）に国の直轄海岸に指定され、その後も昭和 52 年（1977 年）迄、順次直轄海岸工事施行区域が拡大され事業を展開している。

令和 2 年（2020 年）9 月に設立した「黒部川流域治水協議会」において、流域治水に関する議論を開始し、令和 3 年（2021 年）3 月に「黒部川水系流域治水プロジェクト」を策定・公表した。

流域治水プロジェクトでは、①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策、の３つの観点で、河道掘削や堤防整備等の河川整備に加え、あらゆる関係者が協働して、既存ダムによる事前放流や森林整備・保全等により流域全体で流出抑制のための対策を実施する他、氾濫時の被害対象を減少させるための立地適正化計画による居住誘導、被害軽減のためのハザードマップ、マイ・タイムラインの作成等による水害リスクの周知等の取組を組み合わせ、流域における浸水被害の軽減を図ることとしている。更に加速化・深化させるため、令和 6 年（2024 年）3 月に気候変動の影響を考慮した河川及び流域での対策方針を反映した、「黒部川水系流域治水プロジェクト 2.0」への更新を行った。

表 4-2　近代における治水事業等の沿革

時代	西暦	年号	治水事業
明治	1882 年	明治 15 年	福島から下飯野間に、1,820m にわたり築堤
	1884 年	明治 17 年	富山県の事業として改修に着手
	1891 年	明治 24 年	オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケによる現地調査の実施
	1896 年	明治 29 年	ヨハネス・デ・レーケの設計による霞堤が完成
昭和	1933 年	昭和 8 年	富山県による支川の渓流工事
	1937 年	昭和 12 年	直轄改修事業に着手 計画高水流量 4,200m^3/s（愛本地点） 大臣管理区間は河口から上流 13.2km
	1946 年	昭和 21 年	黒部市大布施、沓掛にてコンクリート水制の施工
	1948 年	昭和 23 年	コンクリートブロックによる根固工の施工
	1951 年	昭和 26 年	黒部市上荻生、五郎八にて大型水制（ピストル型）の施工 タワーエキスカベーターによる河床掘削開始（～S42 まで）
	1952 年	昭和 27 年	十字ブロックによる根固工の施工
	1960 年	昭和 35 年	下新川海岸直轄工事として着手
	1961 年	昭和 36 年	黒部川砂防の事業が直轄砂防工事として着手
	1970 年	昭和 45 年	一級河川に指定（大臣管理区間：14.3km） 大臣管理区間は河口から上流 14.3km に延長
	1971 年	昭和 46 年	黒部川水系工事実施基本計画を策定 計画高水流量 4,200m^3/s（愛本地点）
	1974 年	昭和 49 年	宇奈月ダム実施計画調査に着手 大臣管理区間はダム区間を含め 21.2km に延長
	1975 年	昭和 50 年	黒部川水系工事実施基本計画を改定 基本高水のピーク流量 7,200m^3/s（愛本地点） 計画高水流量 6,200m^3/s（愛本地点）
	1976 年	昭和 51 年	工事実施基本計画に基づき、河道の掘削、築堤、護岸水制、根固、床止等の工事を施行
	1979 年	昭和 54 年	宇奈月ダム建設工事に着手
	1986 年	昭和 61 年	大臣管理区間が河口から黒薙川までの 27.6km に延長
平成	1991 年	平成 3 年	縦工による急流河川対策に着手
	2001 年	平成 13 年	宇奈月ダムが竣工 平成 13 年 4 月より管理へ移行
	2006 年	平成 18 年	黒部川水系河川整備基本方針策定
	2009 年	平成 21 年	黒部川水系河川整備計画策定
令和	2024 年	令和 6 年	黒部川水系河川整備計画変更

第5章　水利用の現状

5－1　利用の現状

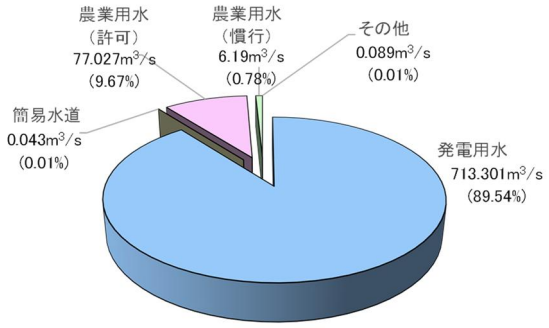
黒部川における河川水の利用の内訳は、表 5-1 及び図 5-1 に示すように、通年、農業用水として約 8,000ha の農地で利用され、水道水としては黒部市に供給されている。このほか、消雪用水等の雑用水としても利用されている。

さらに、水力発電用水として、28 箇所の発電所で最大出力約 99 万 kW の発電に利用されている。

図 5-2 及び図 5-3 に黒部川の水利模式図を示す。

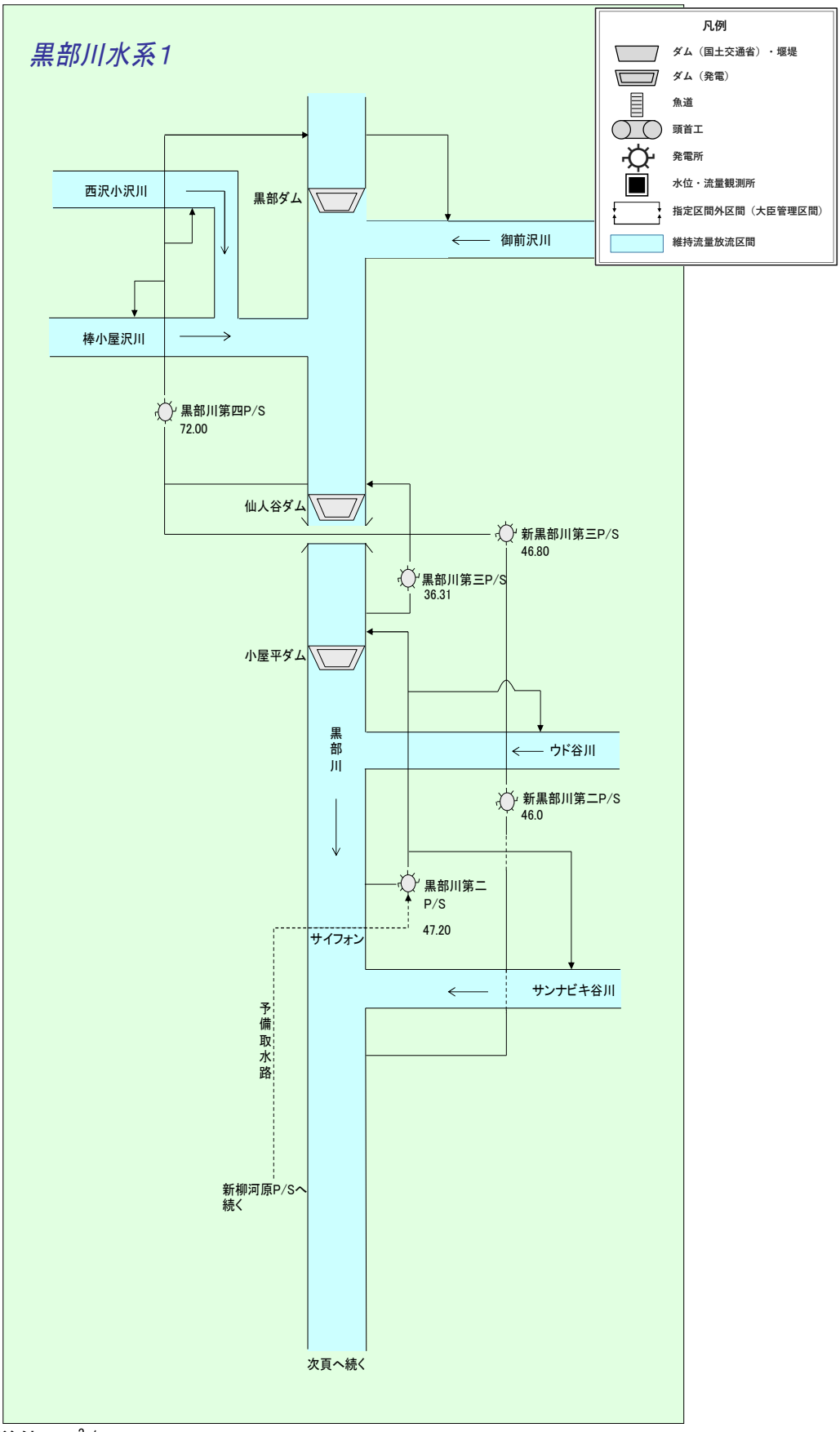
表 5-1　黒部川水系の水利権量一覧表

水利使用目的		最大取水量 (m^3/s)	件数	備　考
発電用水		713.301	28	最大使用水量の合計（従属発電所含む）
簡易水道		0.043	1	
工業用水		0	0	
農業用水	許　可	77.027	2	かんがい面積 7,664.7ha
	慣　行	6.19	4	かんがい面積　426.2ha
	合　計	83.217	6	かんがい面積 8,090.9ha
その他		0.089	3	



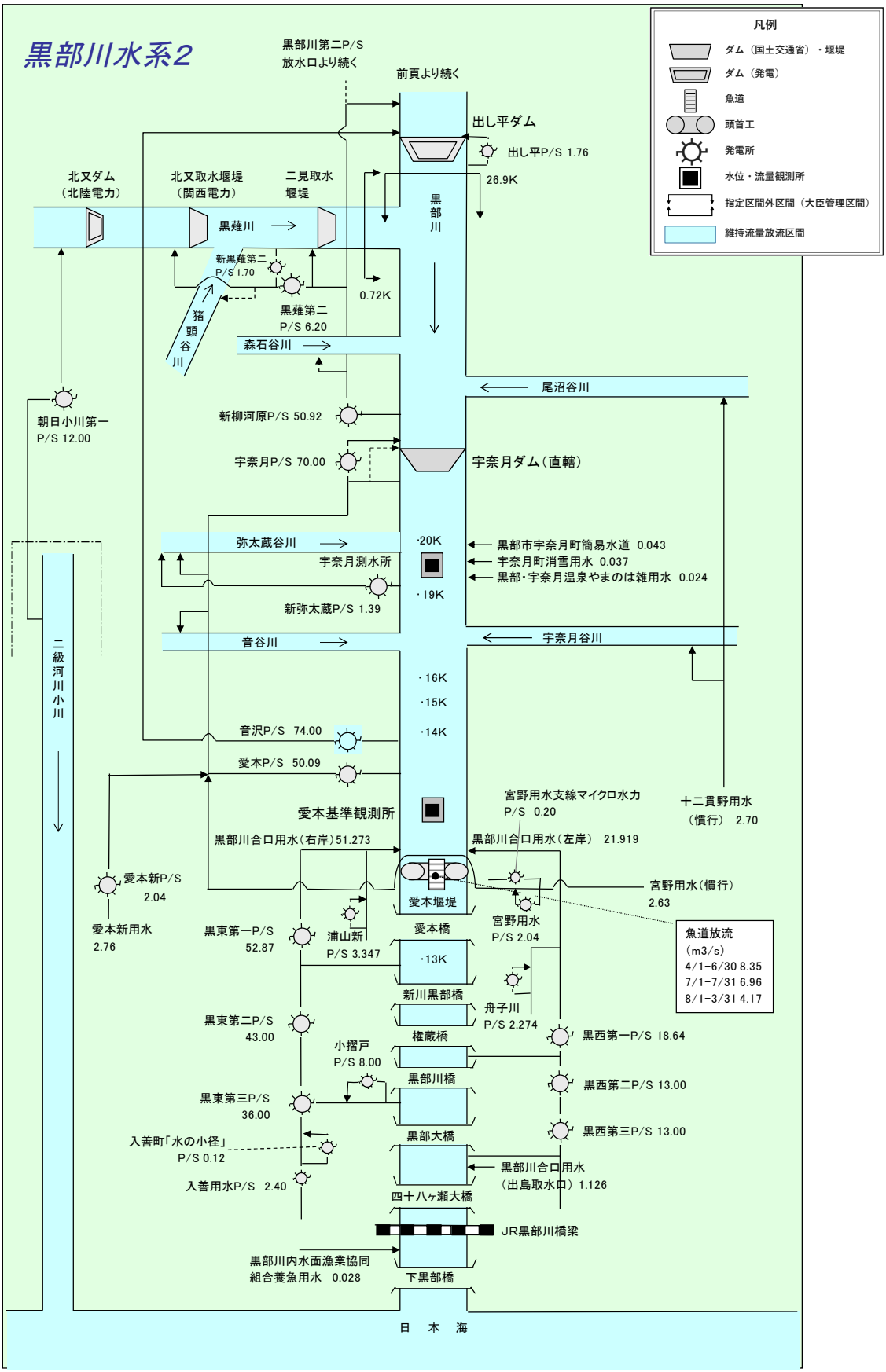
《水利権量　単位（m^3/s）》

図 5-1　黒部川水系における水利権量の内訳（令和8年（2026年）4月現在）



単位：m^3/s

図 5-2　黒部川水利模式図（令和8年（2026年）4月現在）



単位：m^3/s

図 5-3　黒部川水利模式図（令和8年（2026年）4月現在）

5－2　渇水の被害の概要

黒部川水系では、渇水に関する深刻な被害は発生していない。

全国的に深刻な渇水被害が発生した平成 6 年（1994 年）では、黒部川流域においても黒薙雨量観測所の 6 月～8 月の降水量が平年（昭和 59 年（1984 年）～平成 5 年（1993 年））の約 2 割しかなかった。

このため、下流域で農業用水の取水量が減少したが、上流の黒部ダムの発電調整等により大事には至っていない。

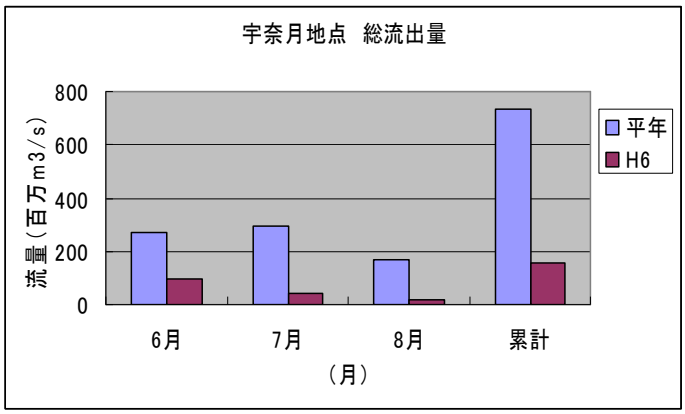


図 5-4　宇奈月地点の総流出量(H6.6-8月)

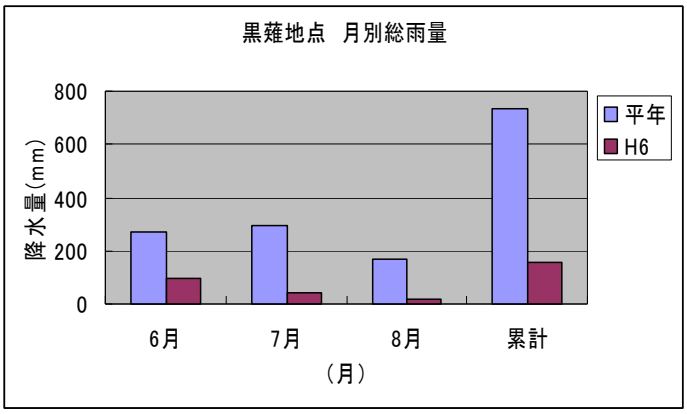


図 5-5　黒薙地点の降水量(H6.6-8月)

第6章　河川の流況と水質

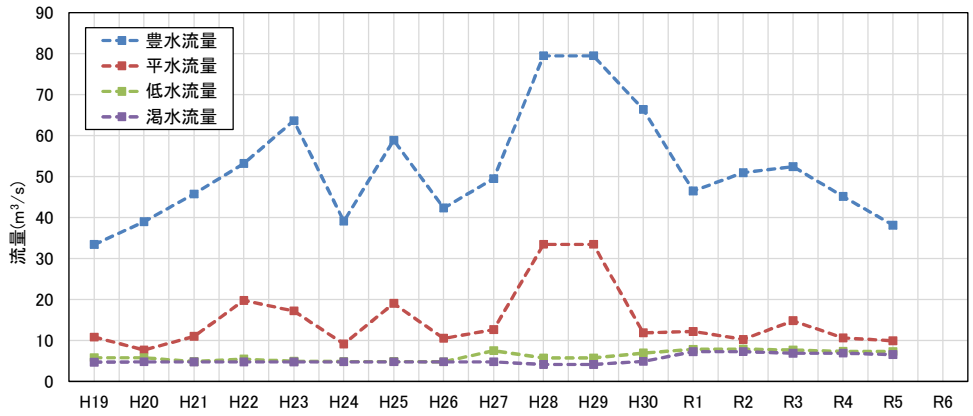
6－1　河川流況

黒部川では農業用水や発電用水のため主に愛本堰堤から取水している（表 6-1 参照）。愛本堰堤下流の愛本地点（堰堤放流量）における流況は、図 6-1 及び表 6-2 に示すとおりであり、全国的に渇水被害のあった平成 6 年（1994 年）では豊水流量が小さいものの、渇水流量は経年的な変化は小さく、渇水流量の平均値は 4.78m^3/s となっている。

表 6-1　愛本堰堤における取水量

単位:m^3/s

期間		農水許可量		発電使用水量(最大)	
		左岸	右岸	左岸	右岸
非かんがい期	9/16～12/31	9.638	23.210	18.640	52.870
	1/1～2/末	5.926	13.600		
	3/1～3/31	7.918	18.300		
	4/1～4/10	9.638	23.210		
かんがい期	4/11～5/15	21.919	51.273		
	5/16～7/25	16.470	39.216		
	7/26～8/15	15.836	37.660		
	8/16～9/15	14.264	33.821		



豊水流量：1 年を通じて 95 日はこれを下回らない流量
平水流量：1 年を通じて 185 日はこれを下回らない流量
低水流量：1 年を通じて 275 日はこれを下回らない流量
渇水流量：1 年を通じて 355 日はこれを下回らない流量

図 6-1　愛本地点における流況の経年変化

表 6-2　愛本地点における流況表（流域面積667.0km²）　単位:m³/s

年	豊水	平水	低水	渇水	最大	最小
S62 (1987)	29.69	19.79	5.70	4.29	—	—
S63 (1988)	30.97	17.58	5.70	4.29	—	—
H1 (1989)	46.32	17.18	8.62	4.22	—	—
H2 (1990)	28.80	13.63	7.47	4.30	—	—
H3 (1991)	55.56	19.15	8.02	4.37	747	—
H4 (1992)	21.36	12.49	8.20	4.53	—	—
H5 (1993)	64.40	19.58	5.98	4.17	—	—
H6 (1994)	12.41	4.53	4.21	4.17	—	—
H7 (1995)	60.30	5.64	4.28	4.19	—	—
H8 (1996)	40.32	7.66	4.25	4.17	2,215	4.17
H9 (1997)	33.78	8.35	4.27	4.17	—	—
H10 (1998)	45.60	9.52	4.30	4.17	—	—
H11 (1999)	27.84	5.96	4.83	4.30	—	—
H12 (2000)	20.96	4.86	4.80	4.17	857	4.17
H13 (2001)	18.51	4.98	4.81	4.77	558	4.50
H14 (2002)	39.69	7.38	4.79	4.17	676	—
H15 (2003)	62.90	8.97	4.77	4.17	—	—
H16 (2004)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
H17 (2005)	62.50	15.69	5.83	4.23	1,313	2.12
H18 (2006)	101.26	12.69	5.94	4.47	731	3.25
H19 (2007)	33.43	10.87	5.81	4.75	803	4.74
H20 (2008)	38.99	7.71	5.81	4.80	584	4.78
H21 (2009)	45.77	11.02	4.88	4.79	608	4.77
H22 (2010)	53.22	19.79	5.47	4.79	649	4.77
H23 (2011)	63.65	17.22	4.96	4.79	1,557	4.79
H24 (2012)	39.14	9.18	4.87	4.80	416	4.77
H25 (2013)	58.89	19.08	4.90	4.80	871	4.78
H26 (2014)	42.32	10.54	4.83	4.80	514	4.77
H27 (2015)	49.52	12.66	7.53	4.80	351	4.77
H28 (2016)	79.48	33.46	5.75	4.16	928	3.98
H29 (2017)	79.48	33.46	5.75	4.17	928	3.99
H30 (2018)	66.38	11.90	6.97	4.91	633	4.66
R1 (2019)	46.49	12.23	7.87	7.30	447	6.92
R2 (2020)	50.97	10.29	7.94	7.31	483	7.15
R3 (2021)	52.43	14.84	7.71	6.89	508	6.47
R4 (2022)	45.16	10.63	7.36	6.93	842	5.69
R5 (2023)	38.16	9.94	7.33	6.60	675	5.05
R6 (2024)	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
平均	46.56	12.90	5.87	4.78	799	4.75
最大	101.26	33.46	8.62	7.31	2,215	7.15
最小	12.41	4.53	4.21	4.16	351	2.12
平成27年～令和6年 10カ年平均	54.43	15.62	6.87	5.73	687	5.30
1/10流量(近10か年の第1位)	36.23	6.78	4.53	4.16	351	3.98

※正常流量とは

河川の機能として、治水以外にも利水機能や環境面など様々な機能が求められている。これらの機能について年間を通して維持していくために必要な流量を正常流量という。この正常流量とは、河川環境等に関する「河川維持流量」と河川水の利用に関する「水利流量」とを同時に満たす流量である。水利流量とは、下流においてかんがいや上水道等を目的とした水利権が設定された流量のことである。

黒部川では愛本地点において、生態系、景観、流水の清潔の保持、漁業、塩害防止、舟運、河口閉塞の防止、河川管理施設の保護、地下水位の維持、観光の 10 項目について必要となる流量を検討し、表 6-3 に示すように正常流量を概ね 4.5m^3/s として設定している。

表 6-3　正常流量の設定

地点名	正常流量	設定根拠
愛　本	概ね 4.5m^3/s	生態系、漁業

6－2　河川水質

(1)　水質環境基準の類型指定

黒部川水系における水質汚濁に係る環境基準の類型指定は、表 6-4 に示す通りであり、黒部川上流に位置する黒部ダム貯水池（黒部湖）を除く全ての流域で AA 類型に指定されている。黒部ダム貯水池（黒部湖）は湖沼 A 類型に指定されている。

表 6-4　環境基準類型指定の状況

水　域　の　範　囲	類　型		達成期間	告示年月日
黒　部　川	河川	ＡＡ	イ	昭和 49 年 12 月 18 日
黒部ダム貯水池（黒部湖）	湖沼	A	イ	平成 3 年 3 月 29 日

達成期間について　イ：直ちに達成、ロ：5 年以内で可及的速やかに達成、ハ：5 年を超える期間で可及的速やかに達成



図 6-2　黒部川流域における環境基準類型指定区分及び水質調査地点

(2)　黒部川水系の類型指定

黒部川大臣管理区間においては、下黒部橋地点、愛本地点、宇奈月地点で水質観測を行っています。図 6-3 に示すように水質（BOD75%）は環境基準（1.0mg/L）を満たし、現行の河川整備計画の目標値（0.5mg/L）も概ね満たしており、表 6-5 に示すように平成 29 年（2017 年）以降は、6 年連続で「水質が最も良好な河川」に選定された。

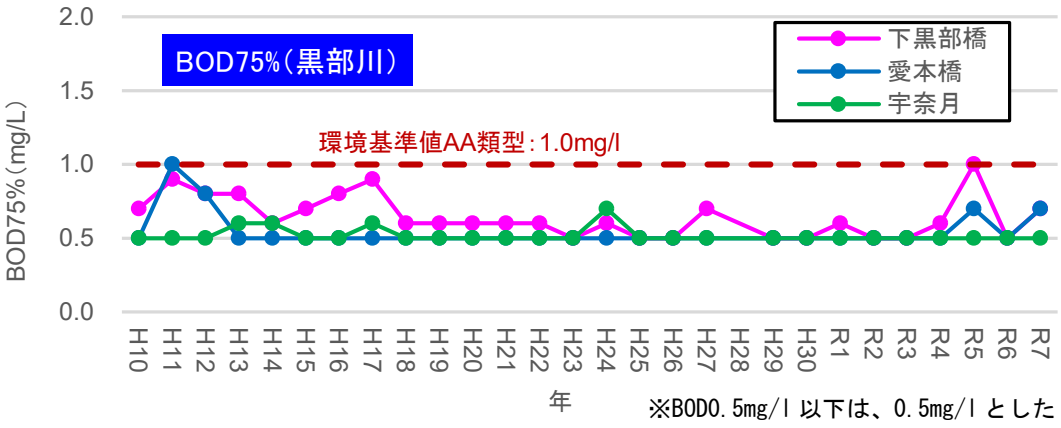


図 6-3　黒部川におけるBODの変化

表 6-5　黒部川：水質が最も良好な河川に選定された年

2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
◎	◎	◎	◎		◎				
2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
	◎	◎	◎	◎	◎	◎			

「水質が最も良好な河川」の定義
対象河川である 162 河川のうち、以下の両方を満たす河川。
対象河川の各調査地点の BOD 年間平均値について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ
対象河川の各調査地点の BOD75%値について、全調査地点で平均をとった値が 0.5mg/ℓ

＜対象河川＞
一級河川（本川）：大臣管理区間に調査地点が 2 以上ある河川
一級河川（支川）：大臣管理区間延長が概ね 10km 以上、かつ大臣管理区間に調査地点が 2 以上ある河川
※湖沼類型指定、海域類型指定の調査地点及びダム貯水池は含まない。

第7章　河川空間の利用状況

7－1　河川空間の利用状況

7.1.1　河川の利用実態

令和 6 年度（2024 年度）に実施した河川利用実態調査の調査結果によると、黒部川は主に春季から秋季に利用者が多く見られ、年間河川空間利用者数は約 13.4 万人であると推定されている。

利用形態別の利用状況は「スポーツ」が 57%と最も多く、次いで「散策等」の 39%、「水遊び」と「釣り」が同率で 2%であった。「スポーツ」の利用者が多い区間は、中ノ口緑地公園が位置する右岸 12.0～13.0k、次いで青野自然公園がある右岸 8.0k～9.0k 区間であり、これらの公園ではパークゴルフを楽しむ利用者が多く見られる。「散策等」の利用は墓ノ木自然公園が位置する 11.0k～12.0k で多い。「釣り」は春季に多く、サクラマスを目的に訪れる遊漁者が見られる。

利用場所別の利用状況は、「高水敷」が 94%とほとんどを占めており、次いで、「水際」の 4%、「堤防」の 2%であった。

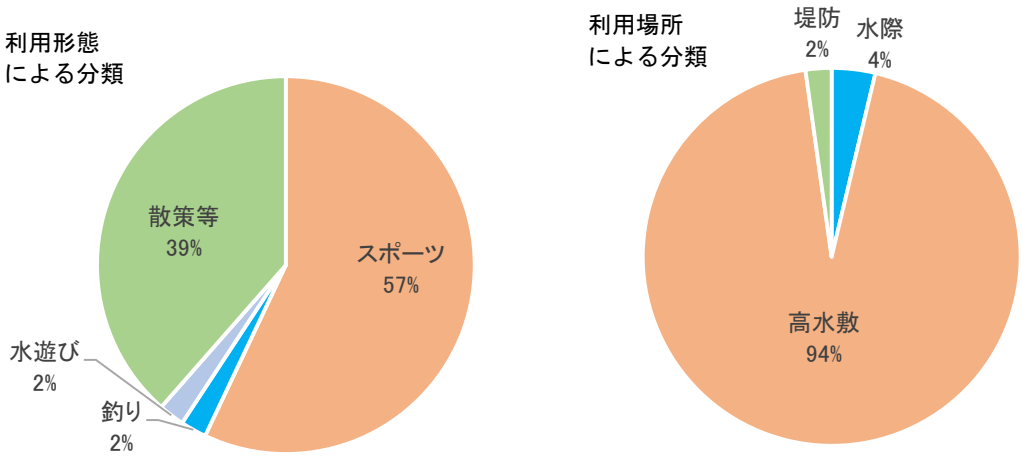


図 7-1　利用形態、利用場所別の利用状況数（令和6年度河川空間利用実態調査）



図 7-2　利用状況（左：スポーツ、中：釣り、右：水遊び）

黒部川には、広大な高水敷が形成されており、富山県東部地域における貴重な親水空間となっている。墓ノ木自然公園や中ノ口緑地公園では、川や自然と触れ合える施設やレクリエーション設備等が整備され、キャンプ・スポーツでの利用や魚のつかみどり大会等に多くの方が訪れている。

黒部市にある黒部川河川公園では、運動公園やマレットゴルフ場等が整備され、川風を感じながらスポーツを楽しむことができ、夏には「魚のつかみどり大会」が開催され多くの人で賑わっている。



図 7-3　黒部川における主な河川公園等位置図

表 7-1　イベント一覧

No.	開催日		開催場所		イベントの内容		
	年月日	曜日	距離標(km)	施設名	イベント名称	主催者	参加人数（人）
1	令和6年8月15日	木	11.0～12.0	墓ノ木公園	墓ノ木 つかみどり大会	黒部川内水面漁協 入善支部	3,000
2	令和6年8月16日	金	0.0～1.0	下黒部橋付近 (左岸荒俣地先)	きときと魚の つかみどり大会	黒部川内水面漁業協働 組合黒部支部	3,500
合計							6,500



図 7-4　魚のつかみどり大会開催状況

黒部川公園と墓ノ木自然公園を対象とした「川の通信簿」では一般の参加者から、景色が良い、川遊びがしやすい、ごみが無くてきれい、等の意見が挙げられ、5 段階評価のうち 2 番目の「相当良い。満足度を味わえる。」の評価を得ている。その一方で、トイレが使いづらい、少ない、汚いなど、トイレの使い易さについて悪い評価であった。

7.1.2　不法行為の防止・解消

黒部川ではゴミの不法投棄が後を絶たず、一般の河川利用者の利用の妨げや、水防活動の支障となる恐れがある。

不法工作物、不法盛土、不法投棄、不法係留等の不法行為は、洪水の流下阻害となり、流出した場合には河川管理施設等の損傷や操作不能の原因となる恐れがあることから、河川巡視による監視体制の強化を行うとともに、関係機関と連携した取組を行う必要がある。

今後もきめ細やかな河川巡視を実施するとともに、河川美化の推進に向け、地域住民との連携を図っていく必要がある。



図 7-5　黒部川ごみマップ

7−2　河川の利用状況

7.2.1　漁業

黒部川では、図 7-6 に示すように、黒部川河口から小屋平堰堤下流迄、黒部川内水面漁業協同組合が漁業権を有し、水産資源の保護等の管理を行っている。また、内水面漁協によって、湖産アユ、ヤマメ、イワナ、サクラマス及びカジカの放流が行われている。

表 7-2　黒部川の漁業の概要

漁　業　権	H8.9～R5.11(内共第３号)
漁　業　区　域	黒部川河口から小屋平堰堤下流まで
許　可　対　象　魚	アユ、ヤマメ、イワナ、サクラマス、カジカ[サケは別途県許可]
期　　間	①アユ　：10 月 1 日から 10 月 7 日／12 月 1 日から翌 6 月 15 日まで ②ヤマメ　：10 月 1 日から翌 2 月末日まで ③イワナ　：10 月 1 日から翌 2 月末日まで ④ﾆｼﾞﾏｽ　：10 月 1 日から翌 2 月末日まで ⑤サケ　：通　年 ⑥ｻｸﾗﾏｽ　：8 月 1 日から 12 月 31 日まで



図 7-6　漁業権許可範囲

第8章　河道特性

8－1　河道の特性

黒部川は、3,000m 級の北アルプスの山々から一気に流れ下り、日本海へと注いでいる。その河床勾配は山地部で 1/5～1/80、扇状地部で 1/80～1/120 という急勾配を呈しており、国内屈指の急流河川である。

以下、黒部川の河道特性について上流域（峡谷部）、中流域（山間部）、下流域（扇状地部）に分けて説明する。さらに、河口から海底にかけての地形についても説明を加える。

黒部川大臣管理区間（宇奈月ダム管理区間は除く）の現況河道縦断図を図 8-1 に示す。

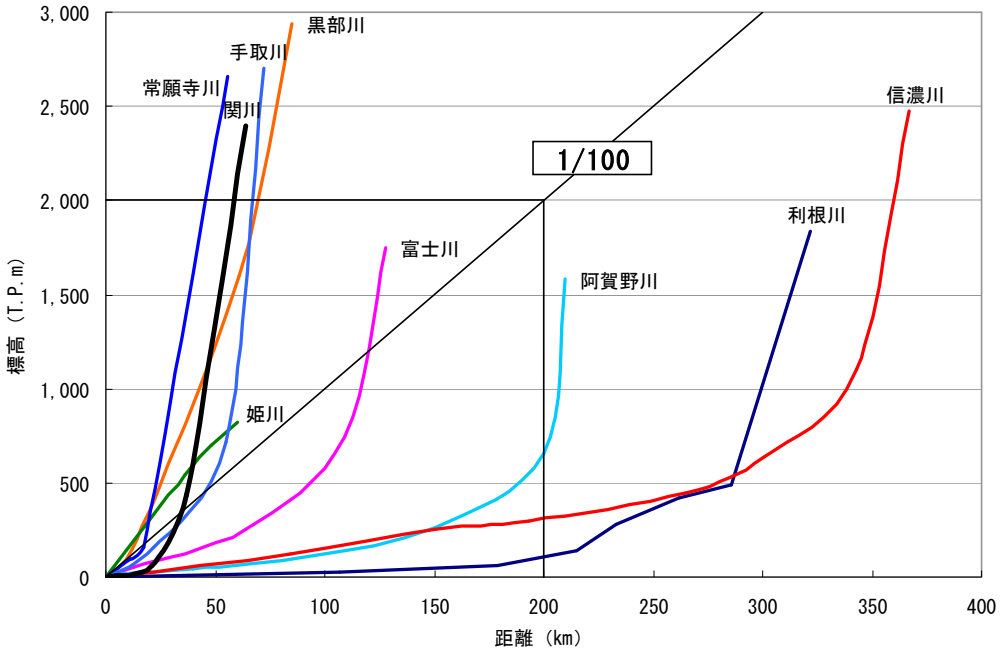
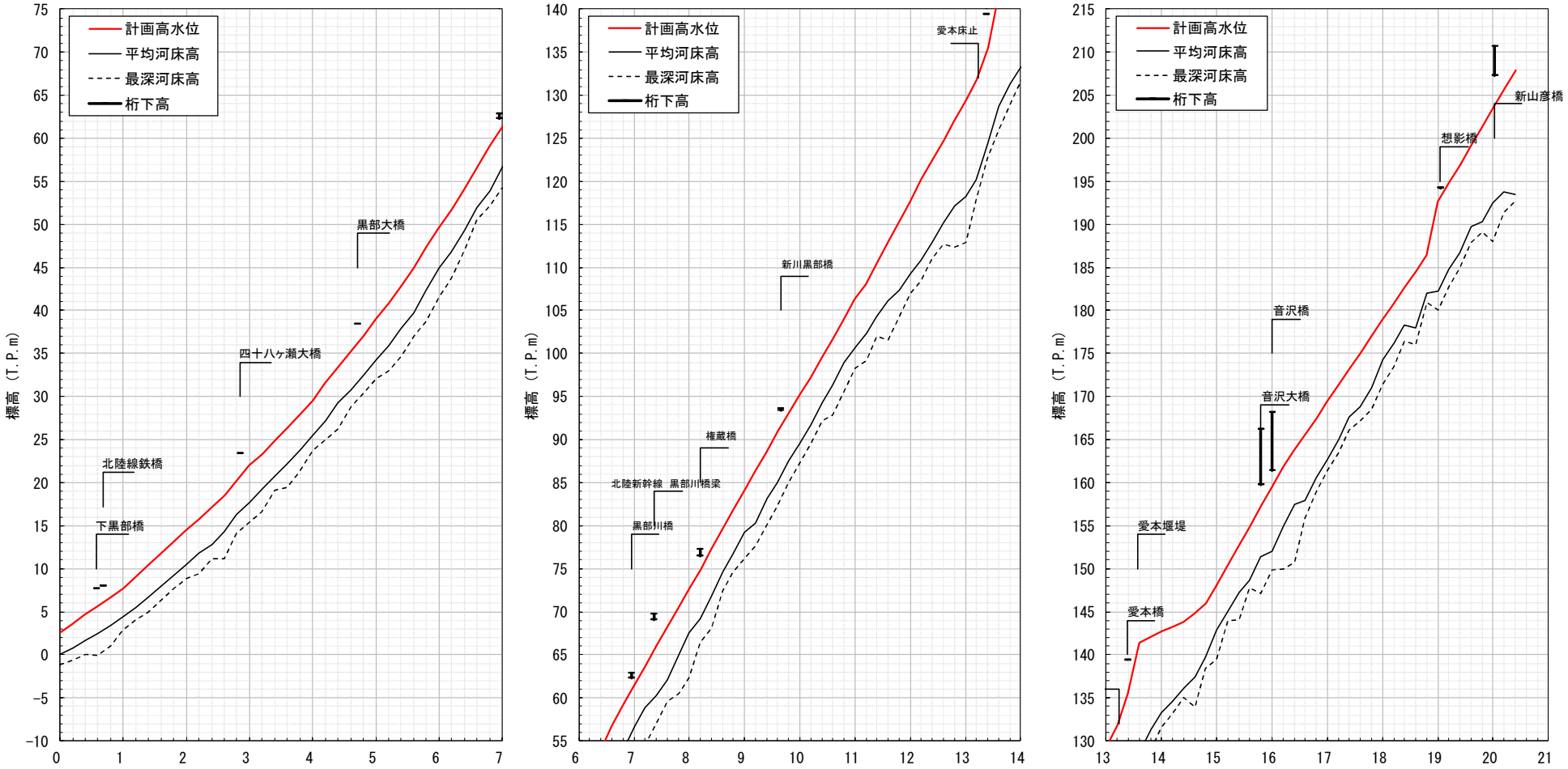


図 8-1　他河川との比較



距離標(km)	0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0
計画高水位(T.P.m)	2.6	7.7	14.5	22	29.5	39	49.6	61.4	72.7	84.2	95.25	106.3	117.65	129.3	142.72	148.13	159.64	169.37	178.9	192.6	203.53
平均河床高(T.P.m)	0.09	4.37	10.46	17.7	25.43	34.25	44.97	56.62	67.56	79.21	89.57	100.66	109.31	118.19	133.23	142.93	152.07	162.76	174.31	182.24	192.46
最深河床高(T.P.m)	−1.13	2.89	8.87	15.41	23.7	32.05	41.54	54.24	62.31	76.2	87.28	98.28	106.97	112.89	131.49	139.54	149.89	161.36	171.42	180.1	188.04

図 8-2　黒部川縦断図（大臣管理区間、ダム管理区間除く）

8－2　上流域（峡谷部）の河道特性（源流～黒薙川合流点）

源流から黒薙川合流点にかけては、黒部湖を挟んで上流側を上廊下(かみのろうか)※、下流側を下廊下(しものろうか)と呼び、それぞれの渓谷地形を成している。

上廊下は一般に薬師沢の出合迄を指し、両岸から岩壁が迫り、岩場の谷が連なっている。沢との出合では深い淵等を形成している。上流に行くにつれ渓谷は浅くなり、渓谷源流に近付くにつれ源流帯の細い沢筋が葉脈のように黒部川に向かって伸びてくる。最上流部付近の河床勾配は約 1/5 と極めて急峻で、河床材料は巨石や岩、砂礫となっている。



図 8-3　黒部湖より上流の河道



図 8-4　源流部（鷲羽岳）

下廊下は上廊下より更に切り立つような崖となり、流水の激しい侵食により典型的な V 字状の谷形を示し、上流から白竜峡、十字峡、S 字峡、猿飛峡といった渓谷景勝地を形成している。河床勾配は約 1/25～1/40 と急峻で、河床は巨石や岩の他、砂礫等より成る。



図 8-3　黒部湖より下流の河道

※廊下：両岸の岸壁がほぼ垂直にそびえる地形が、両側に戸障子を立てた廊下を思わせることから、釣り人か猟師が名付けたといわれている。

また、黒部川流域は山地崩壊面積比率が 5%と高く、黒部川に流れ込む支川や沢から絶えず岩や砂礫等が供給され、河床材料を構成している。



不帰谷崩壊地　　祖母谷崩壊地　　小黒部谷崩壊地

図 8-4　黒部三大崩れ

8－3　中流域（山間部）の河道特性（黒薙川合流点～愛本堰堤）

黒薙川合流点から下流の愛本堰堤（富山県）付近の区間は、岩壁を擁す渓谷を抜け、宇奈月ダムより下流では川谷は開け山間地形を成し、左岸あるいは右岸には段丘が連続して発達している。流路はほぼ単列であるが、川幅が広がる区間では複列化している。河床勾配は約1/100であり、河床材料は大礫から砂礫より成っている。



河口より16k上流付近　　河口より18k上流付近

図 8-5　中流域（山間部）の河道

8－4　下流域（扇状地部）の河道特性（愛本堰堤～河口部）

黒部川は、愛本堰堤を扇頂部とする黒部川扇状地のほぼ中央を北に向かって流れ下る。扇頂部から約 7km の区間は複断面化しており、流路は単列を成し、近年澪筋はほぼ固定化している。それより下流から河口に至る区間では、上記区間に比べ高水敷幅は狭く、流路は網状に広がり澪筋の変動が激しい。河床勾配は概ね 1/100 程度であるが、河口部で約 1/200 と若干緩勾配となる。河床材料は当該区間においても 1m 以上の大石が見られ、玉石状の石の隙間を埋めるように小石、砂礫が内在する。河口付近でも平均 4cm～7cm の粒径である。



図 8-6　扇頂部より下流を望む



図 8-7　河床材料

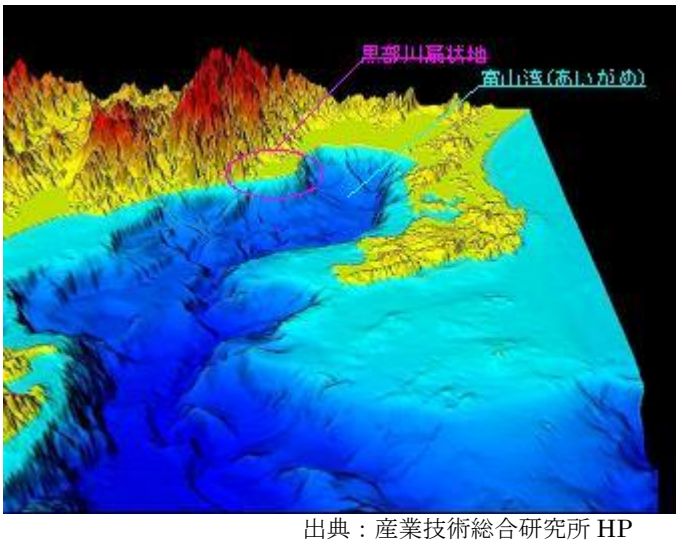


河口より 8k 付近　　河口より 3k 付近　　河口部

図 8-8　下流（扇状地部）の河道

8－5　海域（富山湾）

黒部川扇状地は、海に直接土砂が堆積して出来た臨海性扇状地のため、富山湾に至っても海底地形は急峻で深く、古くから藍甕（あいがめ）と呼ばれている。



出典：産業技術総合研究所 HP

図 8-9　海域（富山湾）の地形状況

第9章　河川管理

9－1　河川管理区間

黒部川では、洪水等による災害の発生を防止し、河川の適切な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の保全の観点から、関係機関が連携しつつ、適切な河川の管理を行っている。

黒部川の管理者や管理区間延長は表 9-1 に示す通りであり、国の大臣管理区間は宇奈月ダム湖端から河口までの全長 27.6km である。

表 9-1　黒部川管理区間延長

管　理　者	河　川　名	管理区間延長(km)		合計 (km)
		河川区間	宇奈月ダム区間	
国土交通省	黒部川	20.7	6.9	27.6
富　山　県	支川含む指定区間	114.2	―	114.2
合　　計		134.9	6.9	141.8

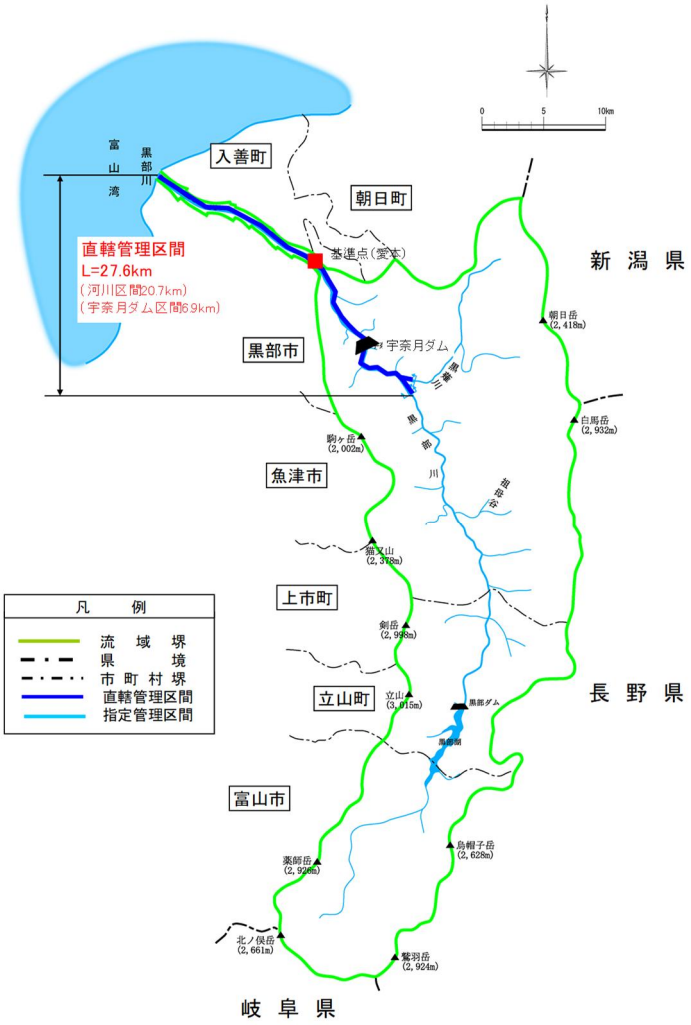


図 9-1　黒部川大臣管理区間

9－2　河川管理施設等

黒部川の河川管理施設は、堤防護岸等の他、床止 1 箇所である。これらの河川管理施設の状況を把握し、適切な処置を講ずるため、河川巡視・点検を行うとともに、堤防の除草等の維持管理を行っている。

また、許可工作物は、堰 1 箇所、樋管・樋門 2 箇所、橋梁 15 箇所の計 18 施設にのぼる（令和 7 年（2025 年）3 月現在）。各構造物については、河川管理施設同様の維持管理水準を確保するよう各施設管理者と協議し、適正な維持管理を行うよう指導している。

表 9-2　黒部川大臣管理区間堤防整備状況

直轄管理区間延長（km）	堤防延長（km）						
	堤防必要区間（a）	計画断面区間（b）	（b）／（a）	暫定堤防区間（c）	（c）／（a）	無堤防区間（d）	（d）／（a）
20.7	31.4	26.2	83.4%	5.2	16.6%	0	0.0%

出典：直轄河川堤防整備状況（令和 6 年 3 月末現在）国土交通省ホームページ

表 9-3　河川工作物等一覧表（大臣管理区間）

種　別	個　数	計
ダム	1(0)	1(0)
堰	0(1)	0(1)
床　止	1(0)	1(0)
樋門･樋管	5(2)	5(2)
橋　梁	0(15)	0(15)

※（ ）は許可工作物数を示す

出典：黒部川水系黒部川河川維持管理計画（R7.3）



図 9-2　愛本床止工

●宇奈月ダム

宇奈月ダムは、平成13年（2001年）より管理に移行しており、洪水調節や発電・水道用水の確保を目的とした多目的ダムである。



図 9-3　宇奈月ダム本体

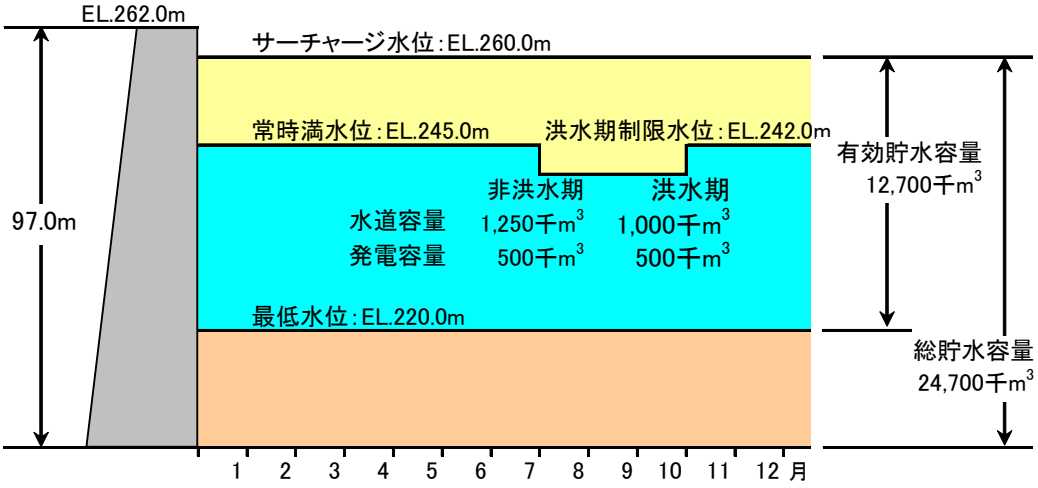


図 9-4　宇奈月ダム容量配分図

表 9-4　宇奈月ダム諸元表

河川名	黒部川水系黒部川
位置	富山県黒部市
集水面積	617.5km^2
形式	重力式コンクリートダム
堤高	97m
堤頂長	190m
堤体積	510,000m^3
基礎地盤高	EL. 165m
ダム天端標高	EL. 262m

9－3　水防体制

9.3.1　河川情報の概要

地域の方々一人一人が、防災、水利用、環境等の水問題に容易に関わることができ、意識を高めることが出来るよう、河川管理者が蓄積した水文情報や環境情報の公開・提供が必要である。さらに、洪水時における円滑な水防活動や警戒避難活動を支援するため、水位情報・CCTV 画像等について県・市町・報道機関等へ積極的な情報提供を行う。

氾濫域の浸水情報（浸水区域・浸水深・水位予想等）についても、確実に関係機関及び地域の方々に伝達される体制づくりに努め、積極的に情報提供していく。

具体的には、水理、水文、水質等の情報及び、土地利用や土砂の移動状況等の国土保全管理に関するデータの収集を行い、インターネット等の媒体を積極的に活用し、地域の方々にこれらの情報を提供する。

河川情報は、図 9-5 に示すように富山県内の光ファイバーネットワークを活用し、関係自治体へリアルタイムでデータを配信するとともに、ホームページ「川の防災情報」により河川の状況を公表し、いち早く地域の方々に防災情報を提供することで、洪水からの被害軽減や水防意識の向上を図っていく。

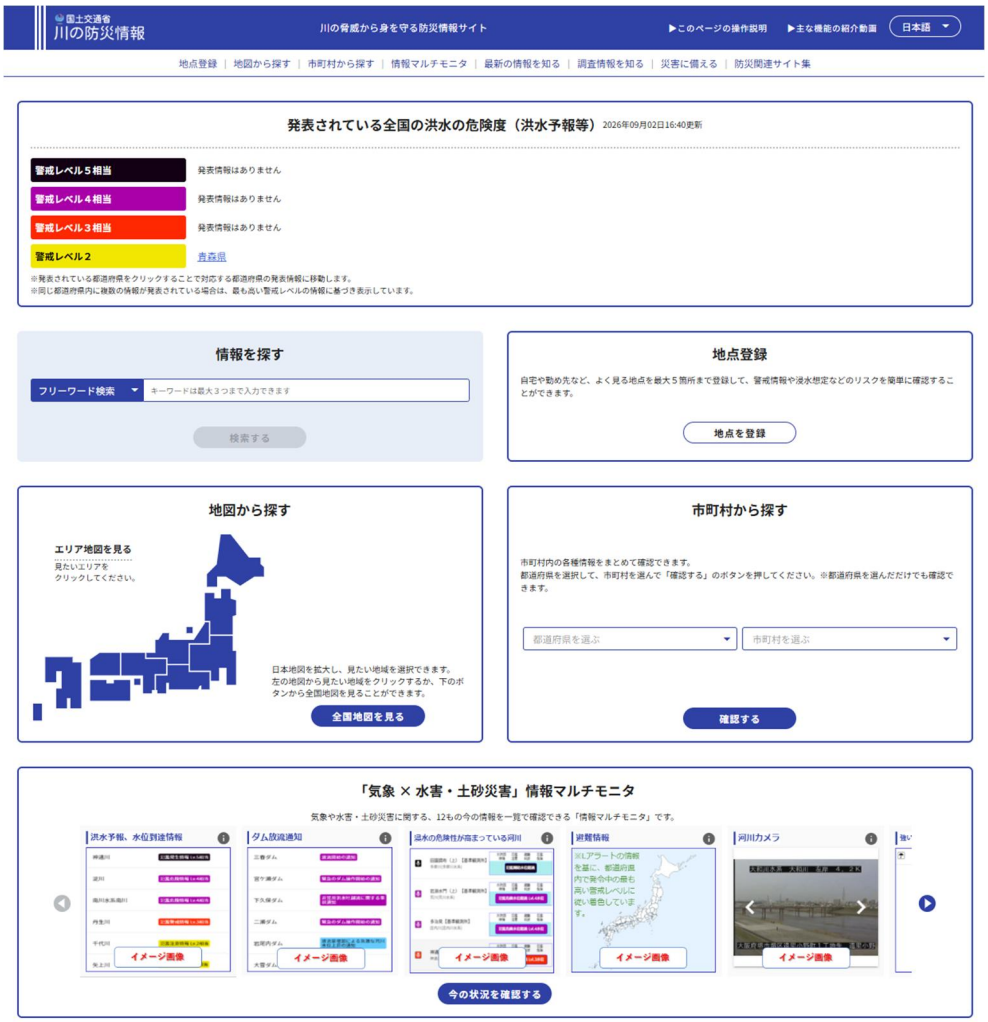


図9-5　「川の防災情報」（https://www.river.go.jp/index）

9.3.2　水防警報の概要

洪水発生時には（表 9-5 参照）水文観測施設や CCTV 画像を活用し、洪水発生状況を的確に把握・発信するとともに、堤防等の河川管理施設や許可工作物の異常を早期に発見し、自治体が迅速に水防活動※を行えるよう河川巡視を行う。自治体が円滑に水防活動を行えるように、水防警報を迅速に発令し災害の未然防止を図る。

さらに、関係機関等への防災情報として、水位情報等を速やかに伝達する他、黒部川に架かる橋梁の橋脚に量水標を設置する等して、地域の方々にとって分かり易く早期の避難行動等に繋がる情報提供に努める。

また、局地的な豪雨や気候変化に関して、保有する各種降雨情報（地点雨量、レーダ雨量等）を関係機関へ提供し、被害の最小化に向けた支援を行う。

※水防活動とは、自治体が中心となって、地域に住んでいる方々が様々な技術を用いながら、一体となって洪水の被害をくい止め、生命や財産を守る地域防災活動を指す。

表 9-5　洪水時河川巡視の目的と巡視時期

名称	巡視内容	巡視時期
洪水時巡視	流水の状況把握 堤防の状況把握 河岸、護岸及び水制根固め等の状況把握	出水により河川管理施設に被害が発生するおそれがある場合

水防活動が速やかに実施できる対策として、国及び地方公共団体の関係機関が相互に連携して情報伝達訓練や水防関係団体との水防訓練（図 9-6 参照）、重要水防箇所の巡視・点検及び、必要な水防資材の備蓄を行う。また、地域の方々の防災意識向上のため、関係市町と協力して広報活動を行う。



図9-6　水防訓練の様子

9.3.3　洪水予報河川の指定

黒部川では、避難指示の発令判断の目安となる、はん濫危険情報の発表等の洪水予報を実施しており、洪水予報の基準となる基準観測所流量を、愛本上流と愛本下流にそれぞれ表 9-6 の通り設定している。

なお、川の防災情報で表示している、はん濫危険水位、避難判断水位、はん濫注意水位は、表 9-6 の各流量相当時水位として表示しており、毎年出水期前に更新している。

表 9-6　黒部川水防警報対象観測所

流量名称	愛本下流 (m^3/s)	愛本上流 (m^3/s)
はん濫危険流量	3,800	2,500
避難判断流量	3,100	1,600
はん濫注意流量	700	700
水防団待機流量	550	550



図 9-7　国土交通省　川の防災情報の表示例

9－4　危機管理の取組

9.4.1　水防関係団体との連携

黒部川では、洪水被害を防止若しくは軽減させるために、国及び関係自治体、関係機関が連携し、情報伝達訓練や水防訓練、重要水防箇所の巡視・点検、水防資材の備蓄を行っている。

9.4.2　水質汚濁対策連絡協議会

水質事故による利水及び環境への被害を最小限にとどめるため、「富山一級水系水質汚濁対策連絡協議会」を通じて迅速な情報提供を行うとともに、関係機関と連携して水質事故の被害拡大防止に努める。また、水質事故防止には、地域の方々の協力が不可欠であり、関係機関が連携して水質事故防止に向けた取組を行う。

さらに、防除活動に必要な資材（オイルフェンスや吸着マット等）の備蓄を行うとともに、迅速な対応が行えるように県や関係市町等と連携して水質事故防止訓練等を実施する（図 9-8）。



図 9-8　水質事故訓練実施状況

9.4.3　水質事故の実態

黒部川では過去 5 年間（令和 2 年（2020 年）から令和 6 年（2024 年））で、1 件の水質事故が発生している。

富山県内において、「富山県一級水系水質汚濁対策連絡協議会」を設置しており、各河川の水質の監視や水質事故発生の防止に努めている。構成メンバーは、国・県・流域市町村から成り、水質汚濁に関する連絡・調整、住民等に向けた水質汚濁防止の啓蒙活動を行っている。

9.4.4　浸水想定区域図の作成

黒部川では、防災・減災における重要な基礎資料としての活用や、住民の危機管理意識の高揚を図るため、平成 28 年（2016 年）6 月に洪水浸水想定区域図を公表した。

関係自治体等では、防災計画の策定や黒部川の洪水ハザードマップ作成に活用している。

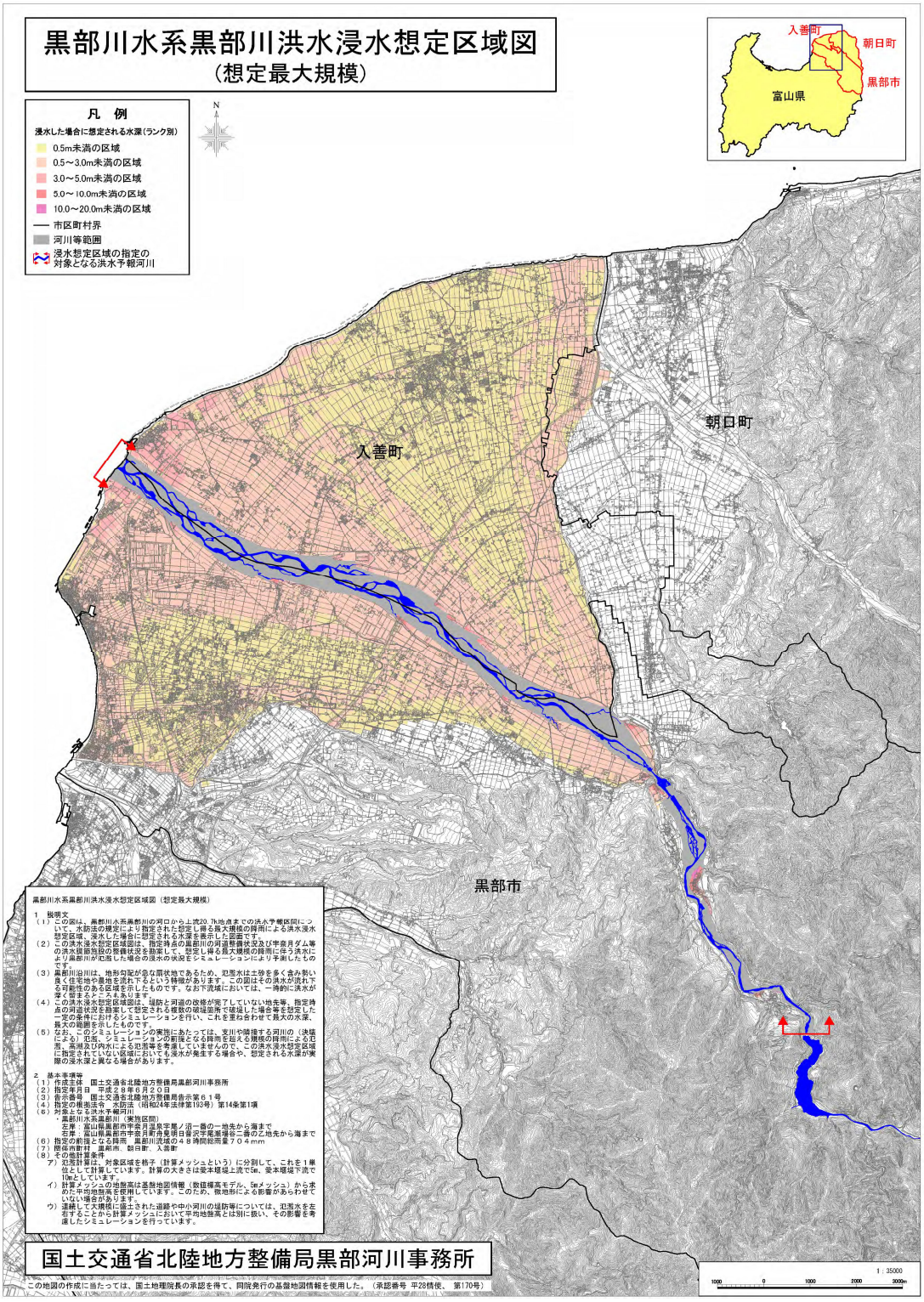


図 9-9　黒部川水系黒部川浸水想定区域図（平成28年6月変更公表）

9.4.5　水害リスクマップ・多段階浸水想定区域図

黒部川では、土地利用や住まい方の工夫の検討及び水災害リスクを踏まえた防災まちづくりの検討等、流域治水の取組を推進することを目的として、発生頻度が高い降雨規模の場合に想定される浸水範囲や浸水深を明らかにするため、「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」を作成・公表している。

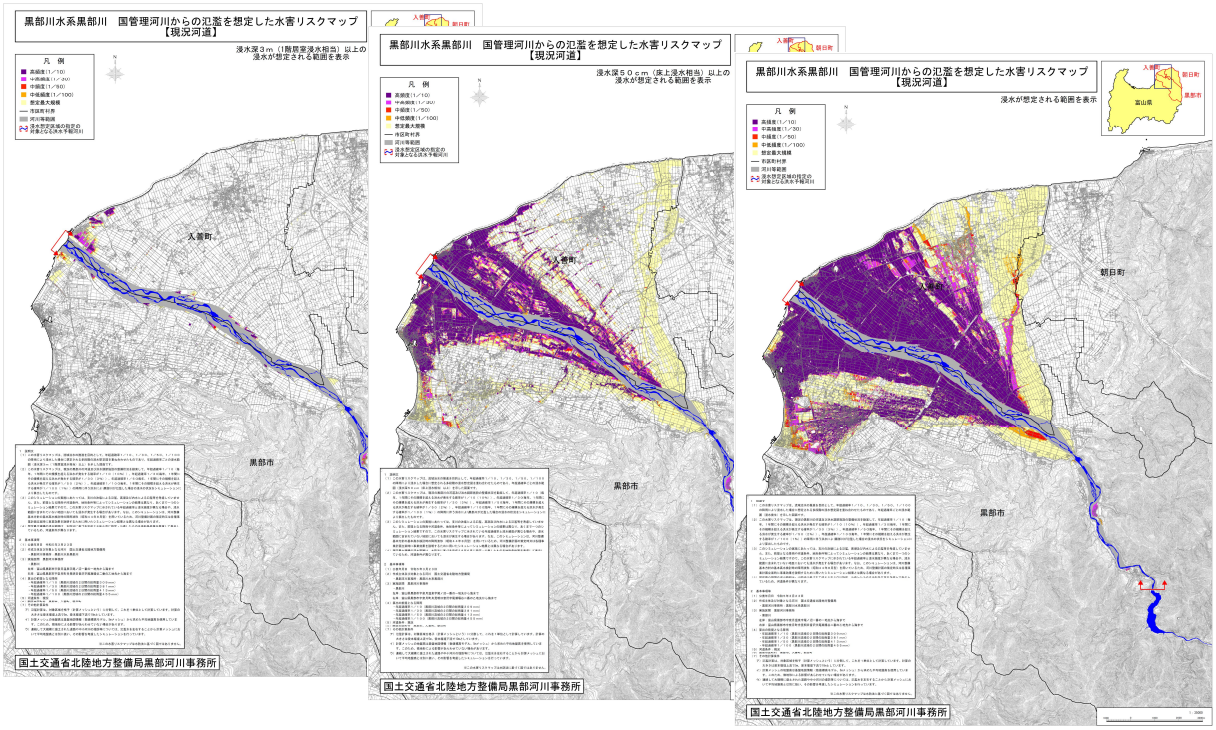


図 9-10　黒部川水系黒部川水害リスクマップ

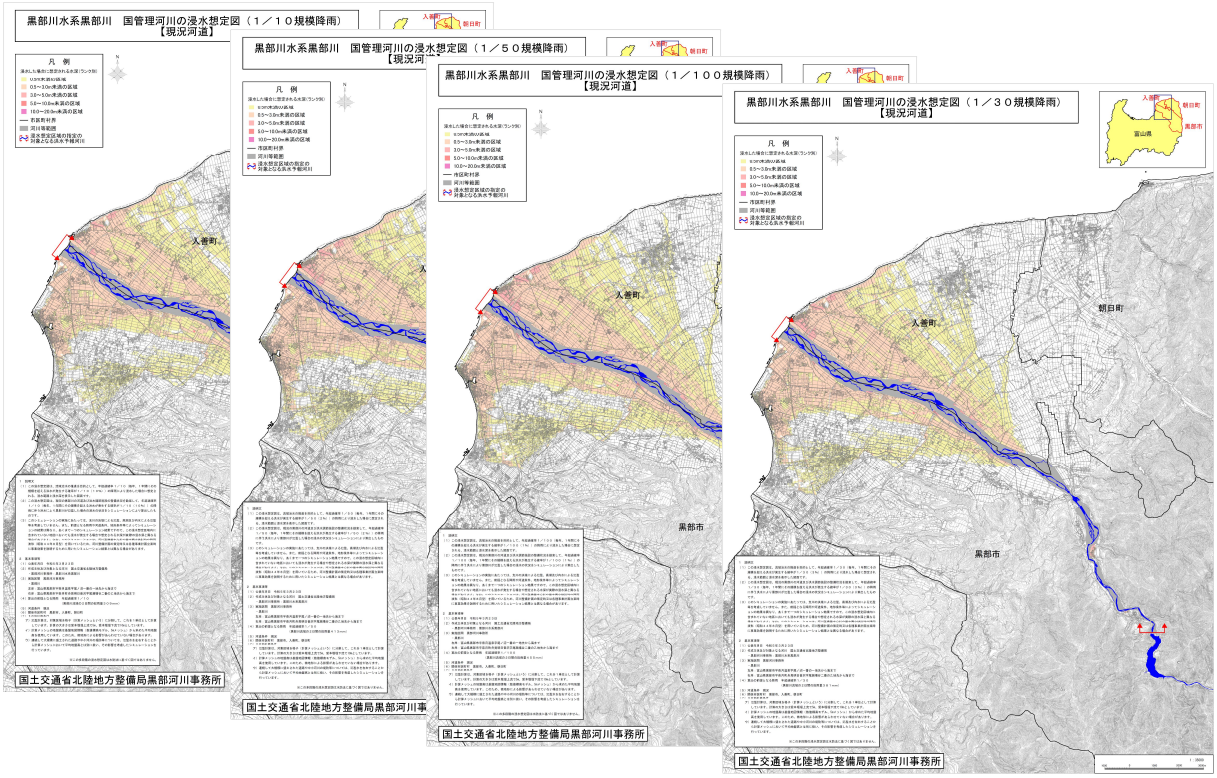


図 9-11　黒部川水系黒部川水害リスクマップ

9.4.6　洪水ハザードマップの作成

黒部川流域関係市町では、水害による人的被害を軽減するため、浸水が予想される区域から避難するために必要な浸水情報、避難情報等の各種情報を分かり易く図示した「洪水ハザードマップ」を令和 2 年（2020 年）3 月に作成・公表した。「洪水ハザードマップ」は、黒部川が想定し得る最大規模の降雨時（1000 年に 1 度程度発生する大雨）の浸水区域や浸水深等を示したものとなっている。

これは、住民に対して洪水時の心得や過去の洪水による被害等を記載することにより、防災意識の高揚を図るとともに、実際に避難指示等が発令された場合、住民の安全かつ迅速な避難が図られることを目的としている。

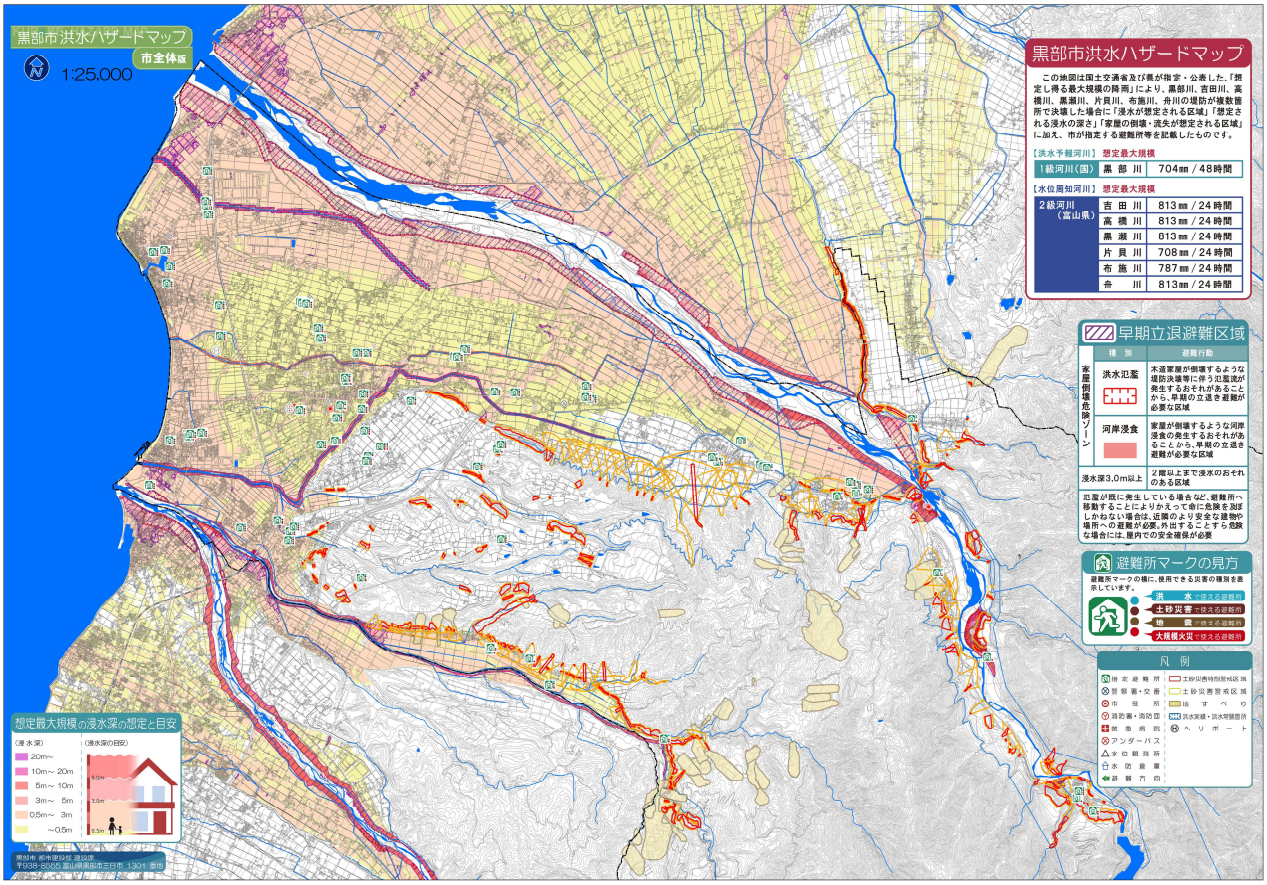


図 9-12　黒部川流域洪水ハザードマップ（令和2年3月）

出典：黒部市ホームページ

9.4.7　地域との連携

黒部川では、小学生と連携した河川美化活動や環境学習（水生生物や海浜植物調査）等のモニタリング、地域住民と連携した河川愛護モニター等を実施している。

地域住民や企業等、各団体が一体となって、河川や海岸清掃活動が継続的に行われており、地域の自発的な活動に対して支援を実施している。



河川美化活動
（不法投棄等防止ポスターの設置）



環境学習
（水生生物調査）



魚にやさしい川づくり検討委員会
（地元漁業関係者との現地意見交換会）



黒部市若栗地区河川清掃大会
（黒部川左岸）





黒部市荒俣地区海岸清掃大会（黒部川河口左岸）

図 9-13　地域との連携